



愛媛大学

南予水産研究センター

South Ehime Fisheries Research Center

年 報

第11号 2018年度版

目 次

はじめに	2
1. センター組織と研究概要	4
(1) 組織の概要	4
(2) 各部門の研究概要	5
(3) 教職員一覧（2019年度）	5
2. 研究者要覧（専任・兼任教員，特定教員・研究員，客員教員，2019年度）	8
3. 研究プロジェクト（専任教員，特定教員・研究員，2018年度）	18
4. 研究成果（2018年度，兼任教員は水産関係の成果のみ記載）	21
5. 学会及び審議会・委員会等の活動（専任教員・2018年度）	33
6. 教育活動（専任教員・2018年度）	35
7. 地域・社会連携活動（2018年度）	41
(1) センター主催，共催，後援行事等	41
(2) 地域特別研究員との共同研究	41
(3) 各種行事への参加	41
(4) 地域連携教育	41
(5) 一般向け講演等	42
(6) 一般向け雑誌記事等	43
8. 新聞記事・テレビ出演等（2018年度）	44
9. センター視察・来訪者（2018年度）	46
愛媛大学南予水産研究センター規則	47
愛媛大学南予水産研究センター運営委員会規程	50
愛媛大学南予水産研究センター運営委員名簿	52
愛媛大学南予水産研究センター参与会要項	53
愛媛大学南予水産研究センター参与会委員名簿	54
愛媛大学南予水産研究センター地域特別研究員要項	55
愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室設置要項	56
愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室室員名簿	57

はじめに

南予水産研究センターが、昨年設立 10 周年を迎え、新たな体制で次の 10 年に向かって踏み出したことは昨年度の年報でご報告したところですが、同年報発行後の昨年 12 月 3 日には、愛南町内のホテルサンパールにおいて、設立 10 周年行事を開催しました。行事は記念式典と祝賀会の 2 部構成で、本学関係者ばかりでなく、水産業関係者、自治体関係者及び教育研究機関関係者等、多数の地域のステークホルダーの皆様をお迎えして盛大に開催することができました。改めまして、これまでの南水研にご協力・ご支援を頂いた皆様方に厚くお礼申し上げます。

さて、最近の南水研の研究活動ですが、現在の主要なプロジェクトである文部科学省の「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム—水産養殖王国愛媛発、スマをモデルとして新養殖産業創出と養殖産業の構造改革（H29～R3 年度）」は、開始後 3 年めを迎え順調に成果をあげてきています。研究開発面では、マグロ類では難しいとされていた人工授精技術をスマで開発し、次世代育種システムの開発に弾みをつけたほか、同技術の核となるスーパーエリート選抜や代理親による生産技術の開発も順調に進んでいます。このプロジェクトの大きな柱となる事業プロデュース活動では、スマの市場調査やスマ販売戦略等検討会の主導などの活動を行い、同会は本年 11 月に「媛スマ普及促進協議会」に発展しました。生産者、漁業団体、愛南町、愛媛県、愛媛大学が参画する同協議会は、スマの生産、販売をコントロールするプラットフォームとなるもので、「媛スマ販売戦略専門部会」と「媛スマ養殖研究専門部会」の 2 つの専門部会を有しており、スマ養殖の技術開発と産業化を車の両輪として推進していく強力な産学官連携体制が整ったこととなります。本年 11 月には愛媛の養殖スマを包括する新たなネーミング「媛スマ」が県によって決定され、11 月末には媛スマの販売も開始されました。スマに関しては、これらのエコシステムによる活動のほか、農業・食品技術総合研究機構のイノベーション創出強化研究推進事業による「スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発（R1～R3 年度）」が後藤准教授を研究代表者として始まっています。

研究活動に関してのもう一つのトピックですが、平成 29 年度の総務省「IoT サービス創出支援事業」の成果を踏まえ、宇和海の水産業インフラとして水温情報システムを恒常的に維持運営していく体制が整いつつあります。現在宇和海では、総務省事業で水温計等を設置した測点のほか、愛媛県がこれまでいくつかの事業で設置した測点、大学独自の測点などの計 16 測点で水温計が稼働し、web ページ「You see U-Sea」でリアルタイム水温情報や過去のデータ等を配信しており、多くの水産関係者等に利用されています。これまで、これらの測点は別々に運用されており、かつ機器も高価で長期的に維持する見通しは立っていませんでしたが、総務省事業で理工学研究科の小林教授（南水研兼任）らが安価な水温計を開発したことで、経費的にはある程度見通せるようになりました。そこで、これを機に宇和海沿岸の産官学連携によりこれらのシステムを包括的に維持していくことになり、愛媛県（水産研究センター、県庁水産課）、沿岸市町（伊方町、八幡浜市、西予市、宇和島市、愛南町）、愛媛県漁業協同組合連合会（宇和海漁業協同組合協議会、愛媛県魚類養殖協議会、愛媛県真珠養殖協同組合協議会、愛媛県真珠貝養殖漁業協同組合協議会を含む）、愛媛大学（南予水産研究センター、沿岸環境科学研究センター、理工学研究科電子情報工学専攻）が参画する協議会が近く発足する運びとなっています。太平洋からの流入により水温が大きく変動する宇和海において、水産業における水温情報は他の海域より重要であり、このシステムが宇和海の水産業に大きく貢献することが期待されます。

一方、南水研の重要なミッションの一つである人材育成、地域連携活動ですが、平成 28 年度に本学に創設された社会共創学部産業イノベーション学科海洋生産科学コースの 3 回生が、昨年度から南水研に配属されました。本年度はこれらの学生が 4 回生となって卒論を履修するとともに新 3 回

生も配属され、学生数が増加して活気を増してきています。地域連携では、従来の活動に加え、昨年度からは愛南町の中学校の JOB チャレンジプログラムの受け入れを行っています。また、今年度から地域との交流活動として、愛南町水産課、愛媛県水産研究センター、宇和島水産高校とのソフトボール大会も始めました。

以上のように、南水研は次の 10 年に向けて順調なスタートを切ったところですが、今後のさらなる発展に向け、関係各位におかれましては、ますますのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年 11 月

愛媛大学南予水産研究センター

センター長 武岡 英隆

1. センター組織と研究概要

(1) 組織の概要

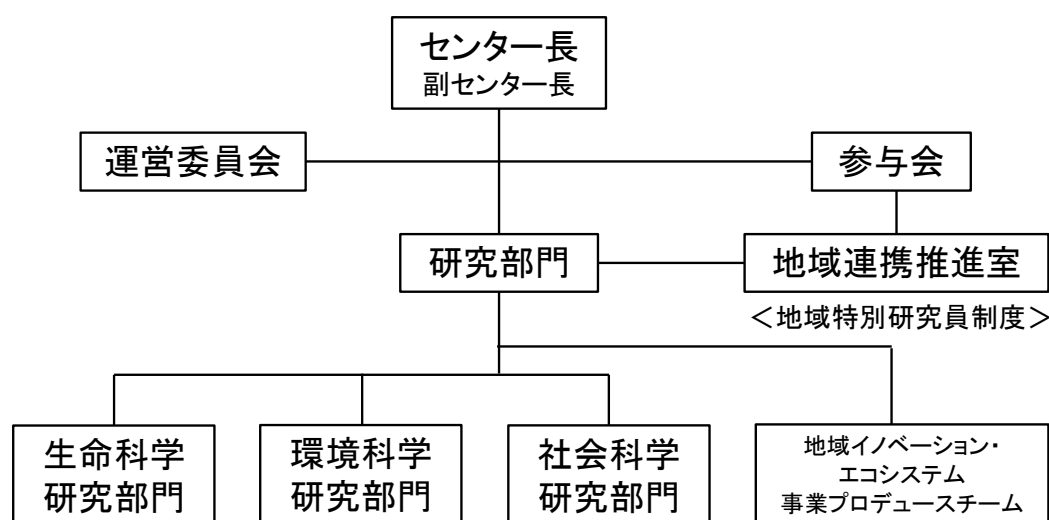
愛媛大学には、学部や研究科などにまたがる横糸的な組織として 4 つの機構（教育・学生支援機構、社会連携推進機構、先端研究・学術推進機構、国際連携推進機構）があります。南予水産研究センター（以下、南水研）は、これらのうち社会連携推進機構に属する研究センターです。社会連携推進機構には令和元年 11 月現在 12 のセンターがありますが、これらは役割により産学連携推進部門と地域連携推進部門に分類されており、南水研は地域連携推進部門の中で地域産業特化型のセンターに位置づけられています。

南水研は、漁獲量の増大を主に目指した従来の「水産学」ではなく、最先端の生命科学による高度な生産技術の開発、環境科学による養殖漁場環境の保全、社会科学に基づく地域水産業振興システム作りといった、「生命」、「環境」、「地域社会」の三者に軸を置いた独自の「水産学」を目指しています。このため、研究部門は、

- (1) 生命科学の視点からのアプローチを目指す「生命科学研究部門」
- (2) 環境科学の視点からのアプローチを目指す「環境科学研究部門」
- (3) 社会科学の視点からのアプローチを行うとともに生命科学および環境科学研究と地域の橋渡しを目指す「社会科学研究部門」

によって構成されています。また、地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチームは、2017～2021 年の間、文部科学省の地域イノベーション・エコシステム形成プログラムにより、南水研が愛媛県と共同で開発した新養殖魚種「スマ」の本格的事業化に向けた活動を推進するチームです。

南水研の組織構成における大きな特徴は、参与会と地域連携推進室の存在です。参与会は、社会連携推進機構長等の学内委員ばかりでなく、地域の自治体や漁業関連団体の代表者等によって構成される組織で、センターの事業や運営に関して地域の意見や助言等を得ることを目的としています（p.53）。地域連携推進室は、これまでの地域連携・研究支援室を廃止して 2018 年度に新たに設置された組織で（p.56）、地域のステークホルダーの方にも参加して頂いて南水研の地域連携活動を積極的に企画・推進していくことを目指しています。地域連携推進室は地域特別研究員制度（p.55）も運営しています。この制度は、自治体や漁協の職員の方を地域特別研究員として登録し、受け入れ教員とともに研究を進める制度で、2019 年度は 14 名の方が登録されています。



(2) 各部門の研究概要

生命科学研究部門

水産養殖は、海洋に生息する生物資源を人間の手で制御し、利用する産業です。水産養殖の生産性を向上させるには、対象生物の生理・生態学的特性をよく理解し、それを効率的に利用する技術開発が欠かせません。当部門では、水産養殖生物を生命科学の視点から解析し、生命科学の技術を駆使して、水産養殖の生産性が飛躍的に向上する革新的な技術を開発することを目指しています。特に積極的に行っているのが、「新養殖種および養殖システムに関する研究」です。中でも南方のマグロ類であるスマの完全養殖と新しい育種技術を組み合わせて、これまでにない魚種による新養殖産業の創出と拡大・普及に力を注いでいます。

環境科学研究部門

愛媛県南予地域に接する宇和海は、リアス式の複雑な海岸地形を持ち、水深が深く黒潮からの潮の流入も起こり、魚介類の養殖に最適な環境です。さらに、サンゴを育む清浄な海は風光明媚で、足摺宇和海国立公園の海中公園にも指定されています。環境科学研究部門では、このすばらしい環境を守りながら持続的に水産業に利用していくための研究を進めています。現在、赤潮や魚病による被害を抑え、養殖産業へ貢献する「赤潮・魚病対策に関する研究」、地域の環境を活かした「資源・環境の保全と産業創出」に関する研究開発や教育に関する取り組みを進めています。

社会科学研究部門

社会科学研究部門は、社会学・文化人類学・経済学・経営学など社会科学的なアプローチにより、持続可能な発展を目指して、適正な水産振興と漁村活性化のシステムづくりを検討し実践する部門です。生命科学および環境科学といった学問と地域の橋渡しを念頭に置きながら、二つの柱となる実証的な研究を推進しています。一つの柱は「水産社会研究」で、社会構造論・生活ネットワーク論、産業文化論・地域文化論の観点から、水産業や漁村における社会構造や生活文化を探求し、その活性化策を提言しています。もう一つは「水産経営研究」で、経済理論（経営論・管理論）をもとに、水産業や漁村におけるマーケティングやマネジメントを検討し、その振興策を提案しています。

(3) 教職員一覧(2019年度)

センター長： 武岡 英隆

(※ 2018 年度中に退任した教職員)

専任教員

松原 孝博	教授	生命科学研究部門 (副センター長)
後藤 理恵	准教授	生命科学研究部門
高木 基裕	教授	環境科学研究部門
清水 園子	准教授	環境科学研究部門
若林 良和	教授	社会科学研究部門
竹ノ内徳人	准教授	社会科学研究部門

兼任教員

菅原 卓也	教授	生命科学研究部門（農学研究科）
今村 健志	教授	生命科学研究部門（医学系研究科）
高橋 学	教授	生命科学研究部門（社会共創学部）
松枝 直人	教授	環境科学研究部門（農学研究科）
小林 真也	教授	環境科学研究部門（理工学研究科）
森本 昭彦	教授	環境科学研究部門（沿岸環境科学研究センター）

特定職員(教員・研究員)

金尾 聡志	教授	地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム
斎藤 大樹	准教授	生命科学研究部門
Tapas Chakraborty	助教	生命科学研究部門
Sipra Mohapatra	助教	生命科学研究部門
Miloš Havelka	助教	生命科学研究部門
西宮 攻	助教	生命科学研究部門（2019年7月まで研究員）
Dipak Pandey	研究員	生命科学研究部門
竹内 久登	研究員	環境科学研究部門（2019年4月～）
*澤山英太郎	助教	環境科学研究部門（2019年4月から日本大学）

客員教授等

亀岡 洋一	客員教授	地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム（2019年7月まで特定職員（教授））
西永 豊光	客員教授	地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム（SEN KAI Food Service LLC）
郡司島宏美	客員准教授	地域イノベーション・エコシステム基盤構築プロジェクト

客員研究員

山木 勝		生命科学研究部門（愛媛県立宇和島水産高等学校教諭）
山下 浩史		生命科学研究部門（愛媛県農林水産研究所水産研究センター担当係長）
深田 陽久		生命科学研究部門（高知大学農学部准教授）
伊藤 克敏		環境科学研究部門（(国研)水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所主任研究員）
藤原 謙		環境科学研究部門（ウミトロン(株)代表取締役）
阿部 覚		社会科学研究部門（(株)コシノ七尾工場工場長）

地域特別研究員

清水 陽介		生命科学研究部門（愛南町）
吉原 勇作		環境科学研究部門（愛南町）
垣本 一真		環境科学研究部門（愛南漁業協同組合）
廣瀬 琢磨		環境科学研究部門（愛南町）
濱田 茂樹		環境科学研究部門（愛南漁業協同組合）
山本 次郎		環境科学研究部門（愛南漁業協同組合）

兵頭 重徳	社会科学研究部門（愛南町）
藤本 吉信	社会科学研究部門（愛南町）
濱 哲也	社会科学研究部門（愛南町）
田中 雅宏	社会科学研究部門（愛南町）
林 大地	生命科学研究部門（愛南町）
田中 俊也	生命科学研究部門（(株) 神明水産）
大西 光	生命科学研究部門（大西水産（有））
高橋 裕司	社会科学研究部門（愛南町）

事務・技術職員

渡邊 弘昇	チームリーダー	船越ステーション
橋岡 千寿	事務補佐員	船越ステーション
高橋 瑞穂	事務補佐員	船越ステーション
中井 優希	事務補佐員	船越ステーション
竹川 理佐	事務補佐員	船越ステーション（2019年4月～）
日野 真成	事務補佐員	西浦ステーション
重見 暢子	部員	地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム
明上奈緒美	部員	地域イノベーション・エコシステム基盤構築プロジェクト
竹田 夏美	研究補助員	船越ステーション
猪崎真由美	研究補助員	船越ステーション
大野祥司郎	技術員	西浦ステーション
上根 真帆	研究補助員	西浦ステーション
安部 杏子	研究補助員	西浦ステーション
清水 優子	研究補助員	西浦ステーション
市川 衛	研究補助員	西浦ステーション（2019年4月～）

2. 研究者要覧(専任・兼任教員, 特定教員・研究員, 客員教員, 2019年度)

専任教員

武岡 英隆 Takeoka Hidetaka

職 名 : センター長 社会連携推進機構特命教授

沿岸環境科学研究センター(兼任)

電 話 : 南予水産研究センター 0895-82-1025 FAX 0895-82-1026

社会連携推進機構 089-927-8513 FAX 089-927-8820

e-mail : takeoka@ehime-u.ac.jp

学 歴 : 1974年3月 京都大学理学部卒業

1976年3月 京都大学大学院理学部研究科修士課程地球物理学専攻修了

1977年11月 京都大学大学院理学部研究科博士課程地球物理学専攻中退

学 位 : 1984年3月 京都大学理学博士

所属学会 : 1. 日本海洋学会 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会 3. 水産海洋学会

専門分野 : 1. 沿岸海洋学 2. 海洋物理学

研究課題 : 1. 沿岸海域の流動と物質輸送 2. 豊後水道の急潮と底入り潮 3. 養殖場の物質循環と環境保全

受賞歴 : 1999年 日本海洋学会日高論文賞

2003年 愛媛県政発足記念日知事表彰

2003年 瀬戸内法30周年記念環境大臣表彰

2009年 原子力安全功労者表彰(経済産業大臣)

2016年 日本海洋学会宇田賞

松原 孝博 Matsubara Takahiro

職 名 : 教授(環境科学部門)

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産学コース(兼任)

電 話 : 0895-73-7112

e-mail : matsu@agr.ehime-u.ac.jp

学 歴 : 1980年3月 北海道大学水産学部水産増殖学科卒業

1986年3月 北海道大学大学院水産学研究科博士後期課程水産増殖学専攻

単位取得中退

学 位 : 1988年12月 水産学博士(北海道大学)

所属学会 : 1. 日本水産学会 2. 日本水産増殖学会 3. 日本比較生理生化学会

専門分野 : 1. 水産増養殖学 2. 魚類繁殖生理学

研究課題 : 1. 養殖用新魚種スマの種苗生産・養殖技術の開発研究 2. 地域有用水産生物の増養殖技術開発 3. 魚類の卵形成に関する生化学・分子生物学的研究 4. 魚類の受精における卵-精子相互作用に関する研究

受賞歴 : 2006年 平成15年度日本水産学会論文賞(共同)

後藤 理恵 Goto Rie

職 名：准教授（生命科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

愛媛大学女性未来育成センター兼務センター員

電 話：0895-73-7112

e-mail：goto.rie.me@ehime-u.ac.jp

学 歴：1995年3月 北海道大学水産学部水産増殖学科卒業

2000年3月 北海道大学大学院水産学研究科博士後期課程水産増殖学専攻修了

学 位：2000年3月 水産学博士（北海道大学）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本動物学会

専門分野：魚類繁殖生理学

研究課題：1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究 2. マグロ類の新育種技術開発 3. 地域
有用水産生物の増養殖技術開発 4. 魚類性統御技術開発 5. 魚類借腹生産技術開発

受賞歴：ベストポスター賞

1. 1999年7月 6th International Symposium on Reproductive Physiology of Fish

2. 2004年9月 5th International Symposium on Fish Endocrinology

高木 基裕 Takagi Motohiro

職 名：教授（環境科学研究部門）

農学部 生物資源学科 生物環境保全学専門教育コース

水族保全学教育分野（兼任）

電 話：0895-82-1028 FAX 0895-82-1026

e-mail：takagi.motohiro.mc@ehime-u.ac.jp

学 歴：1990年3月 高知大学農学部栽培漁業学科卒業

1997年3月 愛媛大学連合農学研究科修了

学 位：1997年3月 博士（農学）愛媛大学

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本水産増殖学会 3. 日本魚類学会 4. 日本生物地理学会

専門分野：1. 水族保全学 2. 水産育種学

研究課題：1. 野生魚，放流魚の遺伝的多様性の保全および追跡， 2. 養殖魚介類の育種および遺伝
的管理

受賞歴：2001年 日本水産学会奨励賞

2011年 愛媛出版文化賞奨励賞

2012年 全国水産試験場長会会長賞

清水 園子 Shimizu Sonoko

職 名：准教授（環境科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産学コース（兼任）

電 話：0895-82-1022

e-mail：shimizu.sonoko.mh@ehime-u.ac.jp

学 歴：1999年3月九州大学農学部水産学科卒業

2004年3月九州大学大学院生物資源環境科学府動物資源科学専攻博士後期課程修了

学 位：2004年3月 博士（農学）九州大学

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本内分泌攪乱化学物質学会 3. 日本水産増殖学会

専門分野：1. 養殖環境学 2. 魚病学 3. 魚類生理学

研究課題：1. ICTを活用した赤潮・魚病対策に関する研究 2. 魚病発生メカニズムに関する研究
3. 赤潮発生メカニズムに関する研究

受賞歴：2001年10月 International Commemorative Symposium: 70th Anniversary of The Japanese Society of Fisheries Science. ベストポスター賞

若林 良和 Wakabayashi Yoshikazu

職 名：教授（社会科学研究部門）

副学長（広報・70周年事業担当）

広報室 室長

社会共創学部 副学部長

社会共創学部産業イノベーション学科海洋生産科学コース水産社会教育分野 教授（併任），コース長

農学部食料生産学食料生産経営学コース水産社会学教育分野 教授（兼任）

大学院農学研究科食料生産学専攻水圏生産学コース水産社会科学教育分野 教授（併任），コース長

大学院連合農学研究科生物資源生産学専攻食料経済学分野 教授（併任）

電 話：城北キャンパス 089 - 927 - 8211（FAX 兼用）

樽味キャンパス 089 - 946 - 9921（FAX 兼用）

e-mail：wakabayashi.yoshikazu.mu@ehime-u.ac.jp

ywakaba@agr.ehime-u.ac.jp

学 歴：1981年3月 学習院大学法学部政治学科卒業

1984年3月 佛教大学社会学研究科博士前期課程社会学専攻修了

1987年3月 佛教大学社会学研究科博士後期課程社会学・社会福祉学専攻単位取得満期退学

学 位：1998年9月 博士（水産学）（鹿児島大学）

所属学会：1. 地域漁業学会 2. 日本カツオ学会 3. 漁業経済学会 4. 日本食育学会 5. 日本社会学会 6. 日本文化人類学会 7. 日本民俗学会

専門分野：1. 水産社会学 2. カツオ産業文化論 3. 食育実践論（ぎょしょく教育論） 4. 黒潮文化・漁撈文化論

研究課題：1. 漁村地域の社会構造と生活文化に関する研究 2. 水産振興と漁村地域活性化に関する研究 3. カツオの産業と文化に関する研究 4. 食育・ぎょしょく教育（水産版食育）に関する研究 5. 漁撈文化と漁場利用に関する研究 6. フィールドワークの技法と実践に関する研究

受賞歴：1999年 地域漁業学会奨励賞

2000年 漁業経済学会賞

2002年 第46回高知県出版文化賞（共同）

2002年 第12回高知出版学術賞（共同）

2007年 地域に根ざした食育コンクール 2006 優秀賞〈農水省消費・安全局長賞〉（共同）

2008年 魚食普及表彰（共同）

竹ノ内 徳人 Takenouchi Naruhito

職 名：准教授（社会科学研究部門）

農学部 生物資源学科 資源・環境政策学専門教育コース
海域社会教育分野（兼任）

電 話：089-946-9835（FAX 兼用）

e-mail：naruhito@agr.ehime-u.ac.jp

学 歴：1991年3月 鹿児島大学水産学部水産学科卒業

1994年3月 鹿児島大学大学院水産学研究科水産学専攻（修士課程）修了

1998年3月 鹿児島大学大学院連合農学研究科水産資源科学専攻（博士課程）修了

学 位：1998年3月 博士（水産学）鹿児島大学

所属学会：1. 漁業経済学会 2. 地域漁業学会 3. 日本沿岸域学会 4. 日本協同組合学会

専門分野：1. 水産経済・経営学 2. 水産物マーケティング論 3. 水産物ブランド論

研究課題：1. 養殖業経営に関する研究 2. 水産業と漁村地域の活性化に関する研究 3. 水産物マーケティングに関する研究 4. 水産物のブランド化に関する研究

受賞歴：2003年 地域漁業学会奨励賞（中楯賞）

2007年 地域に根ざした食育コンクール 2006 優秀賞〈農水省消費・安全局長賞〉（共同）

2008年 魚食普及表彰（共同）

兼任教員

菅原 卓也 Sugahara Takuya

職 名：教授（農学研究科生命機能学専攻）

学長特別補佐

先端研究・学術推進機構 副機構長（学術企画室 室長）

農学研究科附属食品健康科学研究センター センター長

農学研究科附属柑橘産業イノベーションセンター六次産業化部門

学術支援センター センター長（兼任）

学術支援センター 遺伝子解析部門 部門長（併任）

地域協働センター西条（兼任）

南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

植物工場研究センター（兼任）

電 話：089-946-9863

e-mail：mars95@ehime-u.ac.jp

学 歴：1988年3月 九州大学農学部卒業

1990年3月 九州大学大学院農学研究科修士課程修了

1993年3月 九州大学大学院農学研究科博士課程修了

学 位：1993年3月 博士（農学）九州大学

所属学会：1. 日本農芸化学会 2. 日本栄養・食糧学会 3. 日本食品科学工学会 4. 日本食品免疫学会 5. 日本アレルギー学会 6. 日本動物細胞工学会 7. The International Society for Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF)

専門分野：1. 食品機能学 2. 動物細胞工学

研究課題：1. 食品成分の保健機能評価と機能性食品開発に関する研究 2. 柑橘成分の抗アレルギー

一効果に関する研 4. アカモクの保健機能に関する研究
究 3. 香辛料の抗炎症効果に関する研究 4. 機能性食品開発

受賞歴：2000年日本農芸化学会農芸化学奨励賞
2011年 International Conference on Food Factors (ICoFF 2011) Poster Award
2015年 日本農芸化学会大会トピックス賞
2016年 愛媛農林水産賞（技術開発賞）

今村 健志 Imamura Takeshi

職 名：教授（医学研究科分子病態学講座）
プロテオサイエンスセンター（兼任）
南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

電 話：089-960-5045

e-mail：imamura.takeshi.mm@ehime-u.ac.jp

学 歴：1987年3月 鹿児島大学医学部医学科卒業
1993年3月 鹿児島大学大学院医学研究科博士課程単位取得後退学

学 位：1996年3月 博士（医学）鹿児島大学

所属学会：1. 日本癌学会（評議員，監事） 2. 日本がん分子標的治療学会（理事，学術集会会長）
3. 日本骨代謝学会（評議員，あり方委員会委員） 4. 日本整形外科学会（専門医）
5. 日本分子生物学会 6. 日本生化学会 7. 米国骨代謝学会（ASBMR）

専門分野：1. バイオイメージング 2. TGF- β のシグナル伝達 3. がんと骨の生物学

研究課題：1. 生体深部観察のための2光子励起顕微鏡の開発 2. 広範囲生体高速イメージングの
ための光シート顕微鏡の開発 3. がんモデルマウスとがんモデルメダカの開発
4. TGF- β ファミリーのシグナル伝達の解析 5. がん転移の分子メカニズムの解析
6. 骨代謝における BMP シグナル伝達の解析

受賞歴：1998年 岡本研究奨励賞
2000年 第19回日本癌学会奨励賞
2008年 日本骨代謝学会学術賞

高橋 学 Takahashi Manabu

職 名：教授（社会共創学部産業イノベーション学科）
理工学研究科生産環境工学専攻機械工学コース（兼任）
南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

電 話：089-927-9731

e-mail：mtaka@ehime-u.ac.jp

学 歴：1988年3月 長岡技術科学大学工学部創造設計工学課程卒業
1993年3月 長岡技術科学大学大学院工学研究科博士課程
材料工学専攻修了

学 位：1993年3月 博士（工学）長岡技術科学大学

所属学会：1. 日本機械学会 2. 日本材料学会 3. 日本複合材料学会 4. 中国・四国工学教育協
会 5. SOFC 研究会 6. 日本塑性加工学会

専門分野：1. 材料力学 2. 機械材料・材料加工

研究課題：1. 水産研究設備および養殖設備周辺技術の開発 2. AI技術を用いた赤潮プランクト

ン判別システムの開発 3. 養殖用疑似生き餌開発 4. 超音波塑性加工法の開発 5. セラミック軸受球の衝撃損傷強度と信頼性に関する研究 6. CNF の摩擦摩耗特性に関する研究 7. SOFC 電解質薄膜の剥離強度評価 8. CNF を利用した安全装具の開発 9. 再建靱帯固定用エンドボタンの開発 10. 真珠層分離装置の開発

受賞歴：2000年 The 13th European Conference on Fracture, Best Poster Award
2009年 中国・四国工学教育協会 中国・四国工学教育協会賞

松枝 直人 Matsue Naoto

職名：教授（農学研究科生物環境学専攻）
南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

電話：089-946-9844

e-mail：matsue.naoto.mj@ehime-u.ac.jp

学歴：1981年3月 熊本大学理学部化学科卒業
1984年3月 九州大学大学院農学研究科修士課程修了

学位：1991年11月 博士（農学）（九州大学）

所属学会：1. 土壌肥料学会 2. 環境除染学会

専門分野：1. 環境保全学 2. 水圏環境学

研究課題：1. 土壌鉱物やゼオライトを利用した環境汚染物質の吸着除去 2. 途上国貧困層の飲料水の簡易浄化 3. 養魚場での赤潮被害を抑制する資材の開発

受賞歴：1996年日本粘土学会奨励賞

小林 真也 Kobayashi Shinya

職名：教授（理工学研究科情報システム工学専攻）
南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

電話：089-927-8540

e-mail：kob@ehime-u.ac.jp

学歴：1985年3月 大阪大学工学部通信工学科卒業
1988年3月 大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻博士
前期課程修了

1991年3月 大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻博士後期課程修了

学位：1991年3月 工学博士（大阪大学）

所属学会：1. 情報処理学会 2. 電子情報通信学会 3. 電気学会 4. 日本工学教育協会 5. IEEE
6. ACM

専門分野：1. 情報工学 2. 通信工学

研究課題：1. ICT（情報通信技術）の社会応用 2. 分散処理システムに関する研究

受賞歴：2005年 第55回電波の日 総務省四国総合通信局長表彰

2012年 松山商工会議所 運営功労者

2016年 情報処理学会第8回情報システム教育コンテスト（ISECON2015）奨励賞

2017年 総務省情報通信月間情報通信月間推進協議会会長表彰，情報通信功績賞

2017年 情報処理学会「マルチメディア，分散，協調とモバイルシンポジウム（DICOMO2017）」優秀論文賞

2019年 総務省5G利活用アイデアコンテスト 総務大臣賞

森本 昭彦 Morimoto Akihiko

職 名：教授（沿岸環境科学研究センター）

南予水産研究センター環境科学研究部門（兼任）

電 話：089-927-9674

e-mail：morimoto.akihiko.cl@chime-u.ac.jp

学 歴：1994年3月 愛媛大学工学部海洋工学科卒業

1996年3月 愛媛大学大学院工学研究科博士前期課程

土木海洋工学専攻修了

学 位：2000年9月 博士（理学）九州大学

所属学会：1. 日本海洋学会 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会

専門分野：1. 沿岸海洋学 2. 海洋物理学 3. 衛星海洋学

研究課題：1. 東シナ海・日本海の物質循環 2. 豊後水道の底入り潮 3. 東南アジアの沿岸域の海洋環境変動

特定教員

金尾 聡志 Kanao Satoshi

職 名：教授（地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム）

地域イノベーション・エコシステム副事業プロデューサー兼研究開発・知財コーディネーター

電 話：089-927-8517

e-mail：kanao.satoshi.xl@chime-u.ac.jp

学 歴：1979年3月 京都大学農学部水産学科卒業

学 位：1979年3月 学士（農学）

所属学会：1. 地域漁業学会

専門分野：1. 漁業制度論 2. 産業イノベーション論（水産） 3. 水産経済・経営学

研究課題：1. スマ養殖経営収支モデルの作成 2. スマ養殖におけるビジネスモデルとプラットフォームに関する研究 3. 水産業と漁村地域の活性化に関する研究

斎藤 大樹 Saito Taiju

職 名：准教授（生命科学部門）

電 話：0895-73-7112

e-mail：saito.taiju.bk@chime-u.ac.jp

学 歴：1999年3月 東海大学海洋学部水産学科卒業

2004年3月 北海道大学大学院水産科学研究科生命資源科学専攻博士後期課程修了

学 位：2000年3月 博士（水産科学）（北海道大学）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本動物学会

専門分野：1. 魚類発生学 2. 魚類発生工学

研究課題：1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究 2. マグロ類の新育種技術開発 3. 地域有用水産生物の増養殖技術開発 4. 魚類発生工学技術開発

Tapas Chakraborty

職 名：助教（生命科学研究部門）

電 話：0895-73-7112

e-mail：tchakraborty83@gmail.com

学 歴：2004年9月 インド・中央農業大学卒業（水産学専攻）

2006年9月 インド・水産学教育中央研究所修士課程魚類生物学専攻修了

2010年5月 インド・水産学教育中央研究所博士課程魚類生物学専攻修了

学 位：2010年5月 博士（農学）

所属学会：1. International Society for Fish Endocrinology (ISFE), 2. International Society of Zoological Sciences (ISZS), 3. International Society of Stem cell Research (ISSR)

専門分野：Reproductive physiology and endocrinology, Stem cell research

研究課題：molecular biology, stem cell research, Cryopreservation of reproductive materials, marine fish biology, environmental sciences

受賞歴：2008年 Jalihal Endowment 博士賞, ベスト博士論文賞受賞（2006—2007）

2015年 インド CIFE 年間ベスト論文賞（2014—2015）

Sipra Mohapatra

職 名：助教（生命科学研究部門）

電 話：0895-73-7112

e-mail：mohapatra.sipra.wd@ehime-u.ac.jp

学 歴：2004年7月 インド・オリッサ農業工業大学卒業（水産学専攻）

2006年9月 インド・水産学教育中央研究所修士課程魚類生物学専攻修了

2010年7月 インド・水産学教育中央研究所博士課程魚類生物学専攻修了

学 位：2010年7月 博士（農学）

所属学会：1. World Aquaculture Society (WAS), 2. The Japanese society of Fisheries Science (JSFS), 3. Professional Fisheries Graduate Forum (PFGF), India

専門分野：aquaculture, nutritional biology, fish disease management

研究課題：fish diseases and immunology, aquaculture and fisheries, fish nutrition

受賞歴：2015年 インド中央水産教育研究所 ベスト論文賞（2014—2015）

Miloš Havelka

職 名：助教（生命科学研究部門）

電 話：0895-73-7112

e-mail：havelka.milos.se@ehime-u.ac.jp

学 歴：2009年6月 チェコ共和国南ボヘミア大学農学部水産学専門修了

2013年9月 チェコ共和国南ボヘミア大学水産及び水系保護研究院博士課程修了

学 位：2013年9月 博士（水産科学）

所属学会：1. 日本水産学会

専門分野：Aquaculture genetics and genomics

研究課題：1. Genomic resources of kawakawa, 2. Sea water tolerance in amago salmon

受賞歴等：ベストポスター賞

1. 2009年6月 チェコ共和国南ボヘミア大学農学部 成績優秀者学部長賞受賞

2. 2012年6月 International Symposium on Genetics in Aquaculture, Auburn University, Alabama, USA 学生ベスト口頭発表賞受賞
3. 2014年11月 日本学術振興会外国人特別研究員(2年間)

西宮 攻 Nishimiya Osamu

職 名：助教(生命科学部門)

電 話：0895-73-7112

e-mail：nishimiya.osamu.xq@ehime-u.ac.jp

学 歴：2009年3月 水産大学校生物生産学科卒業

2014年3月 北海道大学大学院水産科学研究科海洋応用生命学専攻博士後期課程修了

学 位：2014年3月 博士(水産科学)(北海道大学)

所属学会：1. 日本水産学会

専門分野：1. 水族繁殖生理学

研究課題：1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究

受賞歴：2013年7月19日 17th International Congress of Comparative Endocrinologyにて Best Abstract Award 受賞

研究員

Pandey Dipak

職 名：特定研究員(生命科学部門)

電 話：0895-73-7112

e-mail：pandey.dipak.wv@ehime-u.ac.jp

学 歴：2014年9月 愛媛大学大学院農学研究科修了

2017年9月 愛媛大学大学院連合農学研究科修了

学 位：2017年9月 博士(農学)

所属学会：1. 日本水産学会 2. American Fisheries Society

専門分野：1. 魚類繁殖生理学 2. 魚類免疫学

研究課題：1. 魚類の内分泌に関する研究 2. スマの種苗生産に関する研究 3. PIT-タグによる魚の初期幼生のラベリング 4. TALENとCRISPRを用いた魚のゲノム編集

竹内 久登 Takeuchi Hisato

職 名：特定研究員(環境科学部門)

電 話：0895-82-1022

e-mail：takeuchi.hisato.yz@ehime-u.ac.jp

学 歴：2011年3月 日本大学生物資源科学部海洋生物資源科学科卒業

2017年3月 日本大学大学院生物資源科学研究科生物資源生産科学専攻博士後期課程修了

学 位：2017年3月 博士(生物資源科学)

所属学会：1. 日本魚病学会 2. 日本水産学会

専門分野：1. 魚病学 2. 魚類免疫学

研究課題：1. 魚病病原体の検出手法に関する研究 2. 魚病細菌の性状に関する研究

客員教員

西永 豊光 Nishinaga Toyomitsu

職 名：客員教授（SEN KAI Food Service LLC 社長）
地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム 事業プロデューサー
（2018年6月～）

電 話：089-927-8517

e-mail：nishinaga@dpc.ehime-u.ac.jp

学 歴：1976年3月 愛媛県立松山工業高校定時制卒業

専門分野：1. 養殖魚の海外市場調査 2. 水産物のロジスティクス及び販売促進

亀岡 洋一 Kameoka Yoichi

職 名：客員教授
地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム ファイナンス・コーディネーター（2019年8月～）

電 話：089-927-8517

e-mail：kameoka.yoichi.wu@ehime-u.ac.jp

学 歴：1978年3月 神戸大学経営学部卒業
2001年3月 関西学院大学大学院商学研究科博士課程前期課程卒（経営学修士）

専門分野：1. ベンチャー投資業務 2. ファイナンス業務

郡司島 宏美 Gunjishima Hiromi

職 名：客員准教授
地域イノベーション・エコシステム事業プロデュースチーム 人材育成担当

電 話：089-927-8518

e-mail：gunji@dpc.ehime-u.ac.jp

学 歴：1989年3月 奈良女子大学家政学部住居学科卒業
1991年3月 奈良女子大学大学院家政学研究科住環境学専攻（修士課程）修了

所属学会：都市住宅学会

専門分野：1. 住居学 2. まちづくり

研究課題：大学生の男女共同参画意識について

3. 研究プロジェクト(専任教員, 特定教員・研究員, 2018年度)

センター共通

1. 「えひめ水産イノベーション・エコシステムの構築」—水産養殖王国愛媛発, 「スマ」をモデルとした新養殖産業創出と養殖産業の構造改革, 文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」(平成 29～令和 3 年度), 131,858 千円 (平成 30 年度)

松原孝博

【科 研 費】

1. 基盤研究 A : in vivo 選抜育種による魚類育種の加速化実現. 研究期間: 平成 28- 令和 2 年度. 研究費配分額 210 千円, (分担)

【受託研究】

1. 農林水産省事業 平成 28 年度革新的技術開発・緊急展開事業 (地域戦略プロジェクト) 新規マグロ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大. 研究費合計 51,000 千円 (平成 28-令和元年度予定) (研究統括)
2. 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)「ゲノム編集技術等を用いた農水産物の画期的育種改良」(分担). 平成 26 年度～平成 30 年度. 2,800 千円 (平成 30 年度分).
3. 愛媛県 平成 30 年度伊予の媛貴海養殖安定化技術開発. 分担: スマの親魚管理および出荷技術開発. 1,500 千円 (平成 30 年度分)
4. 愛媛県 平成 30 年度輸出用大型ブリ等生産技術開発. 分担: 成熟抑制による大型ブリ養殖技術の開発. 研究費合計 1,000 千円 (平成 30 年度分)
5. 愛南町受託研究, 平成 30 年度「愛南町沿岸海域の環境調査および赤潮・魚病早期検出とモニタリングに係る研究開発」, 1,500 千円

後藤理恵

【科 研 費】

1. 基盤研究 B : 生殖系列キメラを用いた海産魚配偶子生産システム構築に向けた宿主開発. 平成 29- 令和 2 年度, 研究費総額 14,990 千円, (代表)
2. 挑戦的萌芽: 細胞取り込み能をもつ「コンピテント胚」の開発. 平成 29- 令和元年度. 研究費総額 4,800 千円, (代表)
3. 基盤研究 A : in vivo 選抜育種による魚類育種の加速化実現. 研究期間: 平成 28- 令和 2 年度. 研究費配分額 900 千円, (分担)

【共同研究】

1. 愛媛大学リサーチユニット, 平成 28-30 年度, 「プラズマ医療, 農水産応用研究ユニット」

【受託研究】

1. 内閣府事業 平成 26 年度戦略的イノベーション創造プログラム. 小課題分担: 「ゲノム編集技術等を用いた農水産物の画期的育種改良」, 平成 26-30 年度, 2,000 千円 (平成 30 年度分)
2. 農林水産技術会議 平成 28 年度革新的技術開発・緊急展開事業 (うち地域戦略プロジェクト), 新規マグロ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大, 担当中課題, 平成 28- 令和元年度, 7,375 千円 (平成 30 年度分).
3. 愛媛県 平成 30 年度伊予の媛貴海. 分担: 親魚管理および出荷技術開発, 1,500 千円 (平成 30 年度分)

高木基裕

【受託研究】

1. 新規マグロ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大，生研機構，2,408 千円（分担）
2. 平成 30 年度 DNA 標識によるガザミ放流効果調査，広島県，1,985 千円（代表）
3. 平成 30 年度オヤニラミ生息調査，徳島県，718 千円（代表）

清水園子

【科研費等】

1. （代表）平成 28 年文科省科研費（若手 B）「魚類の健康コンディション評価のための血液中ノンコーディング RNA 網羅的解析」期間平成 28-30 年度． 2,080 千円（平成 30 年度分）
2. （分担）平成 30 年度漁場環境改善推進事業「赤潮被害防止対策技術の開発」．平成 30 年度．研究費合計 800 千円．

【共同研究】

1. 愛南町・愛南漁協・久良漁協「愛南町海域における赤潮・魚病早期検知および発生予測システムの開発」
2. 愛媛大学理工学研究科・愛媛大学社会連携推進機構，愛媛県水産研究センター「双方向通信を用いた赤潮・魚病対策のための『水産情報コミュニケーションシステム』の開発」
3. 愛媛県・愛媛大学沿岸環境科学研究センター・水産研究教育機構増養殖研究所・愛南町・愛南漁協「ICT を利用した養殖魚の感染性疾患予防システム構築のための基盤研究」
4. 愛媛大学農学部環境産業応用化学研究室「新規赤潮防除剤の研究開発」
5. 水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所，九州大学，愛南町，愛南漁協「環境汚染がおよぼす養殖魚への影響の実態調査-環境調和型養殖システムの構築を目指した湾内全域徹底検討」

【受託研究】

1. （代表）愛南町受託研究，平成 30 年度「愛南町沿岸海域の環境調査および赤潮・魚病早期検出とモニタリングに係る研究開発」，1,518 千円

若林良和

【科研費】

1. カツオを題材とした水産版食育の実践的研究 — 「ぎょしょく」の体系化とツール開発—，基盤研究（C）・（一般），780 千円（平成 30～令和 4 年度：総額 4,160 千円），（代表）
2. 課題発見解決型フィールドワーク教育の多面的評価方法の構築，基盤研究（B）（一般），1,350 千円（平成 28～30 年度：総額 3,590 千円），（分担）

【受託研究】

1. 桜井渚泊推進事業にかかる地域資源調査，平成 30 年度今治市桜井渚泊推進事業（桜井地区地域水産業再生委員会），1,333 千円（平成 29～30 年度：総額 2,463 千円），（代表）
2. 愛南町食育施策評価システム構築，平成 30 年度愛南町委託事業（愛南町役場保健福祉課），総額 392 千円，（代表）

【共同研究】

1. 地域の主体性を育む，肱川流域圏 TD プラットフォーム構築プロジェクト 2018，平成 30 年度社会共創学部長裁量経費（研究&教育&地域貢献プロジェクト），960 千円，（分担）

竹ノ内徳人

【受託研究】

1. 輸出用大型ブリ等生産技術開発研究費，愛媛県，800 千円（代表）
2. 漁業法人化推進事業，徳島県，800 千円（代表）

斎藤大樹

【科研費】

1. 基盤研究 C（代表）：代理親効果による配偶子特性の改変．研究期間：平成 28–30 年度，研究費総額 3,800 千円．
2. 挑戦的萌芽（分担）：細胞取り込み能をもつ「コンピテント胚」の開発．研究期間：平成 29–31 年度．研究費総額 4,800 千円．
3. 基盤研究 C（分担）：生殖系列キメラを用いた海産魚配偶子生産システム構築に向けた宿主開発．研究期間：平成 29–31 年度，研究費総額 13,700 千円．
4. 基盤研究 A（分担）：in vivo 選抜育種による魚類育種の加速化実現．研究期間：平成 28–32 年．研究費総額 41,730 千円．

【受託研究】

1. 農林水産技術会議 平成 28 年度革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト），新規マグロ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大．担当：中課題，期間：平成 28–31．研究費合計 4,460 千円（単年度配分）．
2. 愛南町 平成 30 年度愛南町における新規養殖魚開発に係る研究開発．研究費合計 1,573 千円（単年度）

Tapas Chakraporty

【科研費】

1. 基盤研究 B：魚類の生殖腺体細胞の性的可塑性を司るエピジェネティクスの分子基盤，750 千円（分担）

Sipra Mohapatra

【科研費等】

1. 若手研究：魚類の給餌を最適化する新たなアプローチ：オートファジーによる生体防御機構の解明，2,000 千円（代表）
2. 基盤研究 B：魚類の生殖腺体細胞の性的可塑性を司るエピジェネティクスの分子基盤，750 千円（分担）
3. 住友財団研究助成：オートファジーが魚類の受精におよぼす分子機構の解明，1,200 千円（代表）

澤山英太郎

【科研費】

1. メタゲノム解析による養殖マダイ尾鰭末端欠損の原因解明と育種への応用，奨励研究，530 千円（代表）

4. 研究成果(2018年度)

(兼任教員は水産関係の成果のみ記載)

松原孝博

【著書】

1. Production of Germ-Line Chimeras in zebrafish. Saito, T., Goto, R., Rivers, N., Yamaha, E. *Methods Mol Biol.*, 1920:327-341 (2019 Feb) doi: 10.1007/978-1-4939-9009-2_20
2. Microinjection of Marine Fish Eggs. Goto, R., Saito, T., Matsubara, T., Yamaha, E. *Methods Mol Biol.*, 2018 Oct; 1874: 475-487. doi: 10.1007/978-1-4939-8831-0_27.

【その他の雑誌】

1. 松原孝博, 後藤理恵, 清水園子。地の利を生かした養殖産業の競争力。AFC Forum 9月号(日本政策金融公庫)。2018年9月。
2. JATAFF ジャーナル。松原孝博, 後藤理恵。「南予地域発」新規マグロ類「スマ」の早期種苗完全養殖システムの構築。6巻6号。2018。

【報告書等】

1. 文科省 平成29年度地域イノベーションエコシステム形成プログラム。「えひめ水産イノベーション・エコシステムの構築」, 事業化プロジェクト中心研究者。担当: コア技術 3。平成30年度報告書。2019年3月。
2. 松原孝博(研究統括者): 平成29年度革新的技術開発・緊急展開事業(地域戦略プロジェクト)新規マグロ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大。平成30年度研究報告書。2019年2月。
3. 内閣府事業 平成26年度戦略的イノベーション創造プログラム。小課題分担: 「ゲノム編集技術等を用いた農水産物の画期的育種改良」。平成30年度研究報告書。2019年2月。
4. 愛媛県 平成29年度新たな養殖魚種生産技術開発。分担: スマの親魚管理および出荷技術開発。平成29年度研究報告書。2018年3月。
5. 愛媛県 平成29年度輸出用大型ブリ等生産技術開発。分担: 成熟抑制による大型ブリ養殖技術の開発。平成29年度研究報告書。2018年3月。

【学会発表, 各種講演・報告など】

1. Rie Goto, Taketo Hayakawa, Dipak Pandey, Kentaro Nakajima, Hirofumi Yamashita, Taiju Saito and Takahiro Matsubara. Induction of sterilized host by knockdown of dead end gene in kawakawa *Euthynnus affinis* for the surrogate propagation. Eighth International Symposium On Vertebrate Sex Determination. Kona, Hawaii, April 16-20, 2018. (April 18 poster session)
2. Goto, R., Pandey D., Kawata, R., Hayakawa T., Kazeto Y., Gen K., Sakuma T., Yamamoto T., Saito T., Matsubara T. Genome-editing using TALENs in kawakawa, *Euthynnus affinis*. 3rd aquaculture conference, 25-28 September, 2018, Qindao, China.
3. 斎藤大樹・Miloš Havelka・西宮攻・澤山英太郎・後藤理恵・松原孝博。幾何学的形態計測によるスマ *Euthynnus affinis* の形態評価の試み。平成31年度日本水産学会春季大会。平成31年3月29日。東京海洋大学(品川キャンパス)。
4. Tapas Chakraborty, Sipra Mohapatra, Eitaro Sawayama, Taiju Saito, Rie Goto, Motohiro Takagi, Yukinori Kazeto, Takahiro Matsubara. Germ line stem cell and Generation-next breeding attempt in kawakawa, *Euthynnus affinis*. 平成31年度日本水産学会春季大会。平成31年3月27日。東京海洋大学(品川キャンパス)。

5. Dipak Pandey, Rie Goto, Taiju Saito, Yukinori Kazeto, Koichiro Gen, Tetsushi Sakuma, Takashi Yamamoto, Takahiro Matsubara. TALEN-mediated gene editing of *slc24a5* (solute carrier family 24, member 5) in kawakawa, *Euthynnus affinis*. 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 平成 31 年 3 月 28 日. 東京海洋大学 (品川キャンパス).
6. Miloš Havelka, Eitaro Sawayama, Taiju Saito, Motohiro Takagi, Rie Goto, Takahiro Matsubara. Non-invasive method for DNA sampling in kawakawa, tuna-like species (スマをモデルとしたマグロ類の非侵襲的 DNA サンプリング法)。平成 31 年度日本水産学会春季大会. 平成 31 年 3 月 29 日. 東京海洋大学 (品川キャンパス).

【その他】

1. 松原孝博. 愛媛発「スマ」の完全養殖の取り組みについて. 愛媛大学校友会近畿支部定時総会. 2018 年 7 月 14 日 ブリーゼプラザ (大阪市)
2. 松原孝博. レジデント型研究体制を活かしたスマ完全養殖産業の創出. 宮崎大学農学部主催シンポジウム「水圏生物における生理学研究の水産増養殖分野への貢献 -基礎研究と実証研究・産業との融合を目指して-」. 2019 年 3 月 2 日 宮崎大学 (宮崎市)
3. 松原孝博. 愛媛発「スマ」の完全養殖の新たな取り組み. 2018 年 12 月 10 日 松山聖陵高校 (松山市)

後藤理恵

【著 書】

1. Production of Germ-Line Chimeras in zebrafish. Saito, T., Goto, R., Rivers, N., Yamaha, E. *Methods Mol Biol.*, 1920:327-341 (2019 Feb) doi: 10.1007/978-1-4939-9009-2_20.
2. Microinjection of Marine Fish Eggs. Goto, R., Saito, T., Matsubara, T., Yamaha, E. *Methods Mol Biol.*, 2018 Oct; 1874: 475-487. doi: 10.1007/978-1-4939-8831-0_27.

【その他の雑誌】

1. 松原孝博, 後藤理恵, 清水園子. 地の利を生かした養殖産業の競争力. AFC Forum 9 月号 (日本政策金融公庫). 2018 年 9 月.
2. 松原孝博, 後藤理恵. 「南予地域発」新規マグロ類「スマ」の早期種苗完全養殖システムの構築. JATAFF ジャーナル, 6 巻 6 号. 2018 年.

【報告書など】

1. 後藤理恵 (小課題担当): 平成 26 年度戦略的イノベーション創造プログラム. 小課題分担: 「ゲノム編集技術等を用いた農水産物の画期的育種改良」. 平成 30 年度研究報告書. 2019 年 2 月.
2. 後藤理恵 (中課題担当): 平成 28 年度革新的技術開発・緊急展開事業 (うち地域戦略プロジェクト) 新規マグロ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大. 平成 30 年度研究報告書. 2019 年 2 月.
3. 文科省 平成 29 年度地域イノベーションエコシステム形成プログラム. 「えひめ水産イノベーション・エコシステムの構築」, 事業化プロジェクト中心研究者. 担当: コア技術 1 およびコア技術 2. 平成 30 年度報告書. 2019 年 3 月.

【学会発表, 各種講演・報告など】

1. Rie Goto, Taketo Hayakawa, Dipak Pandey, Kentaro Nakajima, Hirofumi Yamashita, Taiju Saito and Takahiro Matsubara. Induction of sterilized host by knockdown of *dead end* gene in kawakawa *Euthynnus affinis* for the surrogate propagation. Eighth International Symposium On Vertebrate Sex Determination. Kona, Hawaii, April 16-20, 2018. (April 18 poster session)

2. Goto, R., Pandey D., Kawata, R., Hayakawa T., Kazeto Y., Gen K., Sakuma T., Yamamoto T., Saito T., Matsubara T. Genome-editing using TALENs in kawakawa, *Euthynnus affinis*. 3rd aquaculture conference, 25-28 September, 2018, Qindao, China.
3. 斎藤大樹・Miloš Havelka・西宮攻・澤山英太郎・後藤理恵・松原孝博. 幾何学的形態計測によるスマ *Euthynnus affinis* の形態評価の試み. 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 平成 31 年 3 月 29 日. 東京海洋大学 (品川キャンパス).
4. Tapas Chakraborty, Sipra Mohapatra, Eitaro Sawayama, Taiju Saito, Rie Goto, Motohiro Takagi, Yukinori Kazeto, Takahiro Matsubara. Germ line stem cell and Generation-next breeding attempt in kawakawa, *Euthynnus affinis*. 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 平成 31 年 3 月 27 日. 東京海洋大学 (品川キャンパス).
5. Dipak Pandey, Rie Goto, Taiju Saito, Yukinori Kazeto, Koichiro Gen, Tetsushi Sakuma, Takashi Yamamoto, Takahiro Matsubara. TALEN-mediated gene editing of *slc24a5* (solute carrier family 24, member 5) in kawakawa, *Euthynnus affinis*. 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 平成 31 年 3 月 28 日. 東京海洋大学 (品川キャンパス).
6. Miloš Havelka, Eitaro Sawayama, Taiju Saito, Motohiro Takagi, Rie Goto, Takahiro Matsubara. Non-invasive method for DNA sampling in kawakawa, tuna-like species (スマをモデルとしたマグロ類の非侵襲的 DNA サンプリング法). 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 平成 31 年 3 月 29 日. 東京海洋大学 (品川キャンパス).

【その他の雑誌】

1. 愛媛大学広報誌ドットイーフォリオ第 11 号, 特集 地域密着型研究センターで学ぶ「南予水産研究センター」, p10. 2019 年 1 月.

高木基裕

【学協会誌】

1. 小田原和史・尾崎良太郎・高木基裕. アコヤガイ貝殻真珠層結晶層厚の遺伝と成長に伴う特性. 日本水産学会誌, 84, 221-232, 2018 年 4 月
2. Eitaro Sawayama, Daiki Noguchi, Kei Nakayama, Motohiro Takagi: Identification, characterization, and mapping of a novel SNP associated with body color transparency in juvenile red sea bream (*Pagrus major*). *Marine Biotechnology*, 20, 481-489, 2018 年 8 月
3. Eitaro Sawayama, Masayoshi Matsushige, Motohiro Takagi: Polymorphisms of the growth hormone gene in domesticated red sea bream populations (*Pagrus major*) based on minisatellite genotypes and nucleotide sequences. *Aquaculture Research*, 49, 2833-2843, 2018 年 8 月
4. 森拓也・高木基裕. アコヤガイ血清中総炭水化物含量を用いた選抜育種. 日本水産学会誌, 84, 818-825, 2018 年 10 月
5. 菅谷琢磨・浜野かおる・佐藤純・高木基裕. クルマエビでの高成長及び耐病性品種の開発に向けた取組と展望. *水産育種*, 48, 139-143, 2019 年 2 月

【その他の雑誌】

1. Mst. Kniz Fatema, Motohiro Takagi: *Ditrema viridae* (Oshima, 1940): an unique fish carries developing young. *Fisheries & Aquaculture News*, 5, 27, 2017 年 7 月-2018 年 12 月

【報告書など】

1. 高木基裕: 平成 30 年度オヤニラミ生息調査. 平成 29 年度共同研究実績報告書. (2018) 徳島県

2. 高木基裕：平成 30 年度 DNA 標識によるガザミ放流効果調査。平成 29 年度共同研究実績報告書。(2018) 広島県
3. 高木基裕：「新規マグロ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大。平成 30 年度「革新的技術開発・緊急展開事業」研究成果報告書 (2018)

【学会発表，各種講演・報告など】

1. Eitaro Sawayama, Yoshihiro Handa, Kei-ichiro Nakano, Daiki Noguchi, Hayato Usui, Miwa Suzuki, Kiyoshi Asahina, Motohiro Takagi. A novel missense mutation in DUOXA2 causing body color transparency in juvenile red sea bream (*Pagrus major*). International Symposium of Genetics in Aquaculture, Cairns, 7 月, 講演要旨集: GDS7. (2018)
2. 山下はづき・辻祐人・高木基裕・山田裕貴・門野真弥・堀岡喜久雄・大木正行・今城雅之。環境 DNA 分析による高知県四万十川のアユ分布状況の把握と冷水病菌分布との相関について。平成 30 年度日本魚病学会秋季大会, 東広島, 9 月, 講演要旨集: 8. (2018)
3. 山田裕貴・今城雅之・山下はづき・堀岡喜久雄・大木正行・辻祐人・高木基裕。DNA マーカーによる四万十川放流アユ種苗の識別と繁殖貢献の有無。平成 30 年度日本水産学会秋季大会, 東広島, 9 月, 講演要旨集: 32. (2018)
4. 高木基裕・登山賢斗・山田裕貴・酒井治己。沖縄島のクサフグ个体群の遺伝的異質性。2018 年度日本魚類学会年会, 東京, 10 月, 講演要旨集: 82. (2018)
5. 工藤孝也・相原周一郎・高木基裕。遺伝標識を用いた広島県東部海域におけるガザミ種苗放流効果の把握～年度間・漁法の比較～。平成 31 年度日本水産学会春季大会, 東京, 3 月, 講演要旨集: 55. (2019)
6. 日比野友亮・高木基裕・清水孝昭・武智昭彦・松重一輝・安武由矢・望岡典隆。石倉カゴの効果検証：モニタリングで採集されたニホンウナギの再捕獲傾向。平成 31 年度日本水産学会春季大会, 東京, 3 月, 講演要旨集: 56. (2019)
7. Miloš Havelka, Eitaro Sawayama, Taiju Saito, Motohiro Takagi, Rie Goto, Takahiro Matsubara. Non-invasive method for DNA sampling in kawakawa, a tuna-like species. 平成 31 年度日本水産学会春季大会, 東京, 3 月, 講演要旨集: 171. (2019)

清水園子

【学協会誌】

1. Noman Reza MA, Mohapatra S, Shimizu S, Kitamura SI, Harakawa S, Kawakami H, Nakayama K, Sawayama E, Matsubara T, Ohta K, Chakraborty T. Molecular cloning, characterization and expression analysis of complement components in red sea bream (*Pagrus major*) after *Edwardsiella tarda* and red sea bream Iridovirus (RSIV) challenge. *Fish Shellfish Immunol.* 2018, 82, 286-295.

【報告書など】

1. 平成 30 年度漁場環境改善推進事業報告書「赤潮被害防止対策技術の開発」。平成 30 年度。2018 年 3 月
2. 清水園子：平成 30 年度愛南町受託研究報告書「愛南町沿岸海域の環境調査および赤潮・魚病早期検出とモニタリングに係る研究開発」

【学会発表，各種講演・報告など】

1. 清水園子。宇和島漁業協同組合 赤潮勉強会 講師 平成 30 年 5 月 30 日 宇和島市
2. 清水園子。平成 30 年度愛南漁業協同組合 魚類養殖協議会総会 活動報告。平成 30 年 6 月 14

日 愛南町

3. 清水園子, 武岡英隆. 「海流と赤潮の伝搬について」. 赤潮の発生及び被害防止に係る勉強会. 平成 30 年 10 月 16 日, 愛南町
4. 清水園子「赤潮・魚病対策技術の研究開発（これまでの成果とこれからの展望）」南予水産研究センター 10 周年記念式典. 愛南町

若林良和

【学協会誌】

1. 若林良和：地域に根ざした食育実践の可能性（巻頭言）. 日本食育学会誌 12(2)：93（2018.09）

【その他の雑誌】

1. 若林良和：宮崎県日南市におけるカツオの産業と文化－「ぎょしょく」をもとにした地域モノグラフ(2)－. 愛媛大学社会共創学部紀要 2(2)：1-13（2018.09）
2. 若林良和：宮古・池間島のカツオ産業文化誌(1)－近現代における池間島カツオ産業史の整理と検討－. 宮古島市総合博物館紀要 23：27-41（2019.03）
3. 若林良和・阿部覚：「ぎょしょく教育」活動の軌跡と新展開－水産分野における就学前食育の検討－. 水産振興 612（52-12）：1-3, 4-8, 9-17, 57-106, 107-113（2018.12）
4. 若林良和：これからの共創社会と価値の再生・創出－地域資源としてのカツオに関する実践から－. 21 世紀 WAKAYAMA89：4-8（2018.08）
5. 若林良和：地域共創による価値の創出とブランド化－「ぎょしょく教育」と「カツオ産業文化」の視点から－. 調査研究情報誌 E C P R 41：29-36（2018.10）
6. 若林良和：えひめの魚を「ぎょしょく」で探る－マダイとカツオのブランド化に向けた取り組み－. 文化愛媛 81：30-33（2018.10）
7. 若林良和：これからの共創社会と価値の再生・創出－地域資源としてのカツオに関する実践から－. 経済情報（紀陽銀行）457（2018 年 9 月号）：4-8（2018.10）
8. 若林良和：わが師 石原義剛館長の教え（石原義剛館長追悼特別号）. 海とにんげん & SOS 23：14（2018.12）

【報告書など】

1. 若林良和・間々田理彦・田中洋子・皆川勝子：愛南町「食育施策評価システム」構築プロジェクト報告書（受託事業報告書）. 愛媛大学・愛南町：1-48（2019.03）

【学会発表, 各種講演・報告など】

1. 若林良和：私たちにとって、必要な共創とは何か～3つのキョウドウ（共同・協同・協働）から考える～. 2018 年度愛媛大学社会共創学部社会共創クリエイター育成プログラム, 愛媛大学 CRI－1（松山市）, 2018 年 4 月 22 日.
2. 若林良和・藤田昌子・三宅和彦・市川虎彦・鈴木茂・林恭輔：東予地域の地域資源を活用した「愛媛学」の構築－社会・産業・環境・スポーツの4分野におけるトランスディシプリナリー研究の試行－. 平成 30 年度愛媛大学・松山大学連携事業成果報告会, 松山大学樋又キャンパス（松山市）, 2018 年 5 月 28 日
3. 若林良和：愛媛大学における地域専門人材育成とリカレント教育の展開 閉会挨拶. 愛媛大学社会連携フォーラム 2018, 愛媛大学南加記念ホール（松山市）, 2018 年 8 月 2 日.
4. 若林良和・羽藤盛治：持続可能な「地域専門人材」育成に向けた「地域イノベーター育成プログラム」の開発～愛媛大学地域協働センター西条における試行的検討～. 愛媛大学地域志向教育研究支援事業（平成 29 年度）成果報告会, 愛媛大学総合情報メディアセンターメディアホ

ール（松山市），2018年8月24日

5. 若林良和：愛媛大学開学 70 周年について ―これまでの歩みと今後の取り組み方向性―。第 1 回報道機関と愛媛大学との懇談会，ANA クラウンプラザホテル松山（松山市），2018 年 9 月 5 日。
6. 若林良和：現代漁村における地域活性化と水産振興の方途 ―カツオ研究と地域共創をめぐる―。日本村落研究学会中国四国地区研究会，岡山大学文学部（岡山県岡山市），2018 年 9 月 8 日。
7. 若林良和：社会共創学的方法による課題解決例：「協働～共創」による地域活性化と産業振興。平成 30 年度愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム，愛媛大学地域協働センター西条（西条市），2018 年 9 月 29 日
8. 若林良和：個別報告・座長。地域漁業学会第 60 回大会（奈良大会），近畿大学農学部（奈良県奈良市），2018 年 10 月 28 日。
9. 若林良和：課題研究テーマの指導（水産業の現在コース）。平成 30 年度 SGH 事業「宇和島のうみ・やまから世界を考える」，愛媛県立宇和島南中等教育学校（宇和島市），2018 年 11 月 22 日。
10. 若林良和：カツオ学（カツオ検定）へのいざない。第 8 回枕崎カツオマイスター検定，南薩地域地場産業振興センター（鹿児島県枕崎市），2018 年 11 月 24 日。
11. 若林良和：「魚職」でカツオを探る③。第 7 回枕崎カツオマイスター検定，南薩地域地場産業振興センター（鹿児島県枕崎市），2018 年 11 月 25 日。
12. 若林良和：全国に広がる愛南発「ぎょしょく教育」 ～「ぎょしょく教育」の実績評価とこれから～ 開会挨拶。第 9 回愛南町水産フォーラム，御荘文化センター（愛南町），2018 年 12 月 15 日。
13. 若林良和：開学 70 周年を迎える愛媛大学の近況報告。平成 30 年度松山市役所愛大会総会，東京第一ホテル松山（今治市），2019 年 2 月 1 日。
14. 若林良和：地域資源を活かしたまちづくりと観光の可能性 パネルディスカッション「地域資源を活かしたまちづくりの可能性」コーディネーター。平成 30 年度愛媛大学公開講座 in 今治（愛媛大学 COC 企画運営部），みなと交流センター「はーばりー」（今治市），2019 年 2 月 2 日。
15. 若林良和：初カツオ 監修。食彩の王国，テレビ朝日系列，2018 年 4 月 21 日。
16. 若林良和：来年度開学 70 周年 紹介。ひめポン！，NHK 松山放送局，2018 年 6 月 14 日。
17. 若林良和：新鮮で弾力のあるブランド魚「びやびやカツオ」 監修。ごはんジャパン，テレビ朝日系列，2018 年 6 月 16 日。
18. 若林良和：愛媛発！ 愛媛の食育応援団 えひめの魚を召し上がれ。中四国ライブネット，南海放送ラジオ，2018 年 7 月 15 日。
19. 若林良和：カツオ研究の醍醐味（研究の経過・学術的な意義・日本カツオ学会の取り組み・カツオの食文化）。TIPS 小林ノート，南海放送ラジオ，2018 年 7 月 8・16・23・30 日。

竹ノ内徳人

【学協会誌】

1. 森優輝・竹ノ内徳人：障害者福祉と内水面漁業の連携，地域漁業研究，58(3)，144-151，地域漁業学会，2018。

【その他の雑誌】

1. 竹ノ内徳人：愛育フィッシュ提供飲食店の展開と価値創造の可能性，養殖ビジネス，55(6)，8-11，2018.
2. 竹ノ内徳人：大衆自身商材としての養殖マダイの強み，養殖ビジネス，55(11)，9-13，2018.

【報告書など】

1. 竹ノ内徳人，山本和博，間々田理彦：輸出戦略としての差別化・付加価値化技術の開発，平成30年度愛媛県受託研究事業「輸出用大型ブリ等生産技術開発研究」，愛媛大学南予水産研究センター社会科学部，46ページ，3月，2018.
2. 竹ノ内徳人，松井隆宏，原田幸子，中原尚智，三宅和彦：徳島県漁業法人化事業報告書，平成30年度徳島県受託研究事業「漁業法人化推進事業」，愛媛大学南予水産研究センター社会科学部，34ページ，3月，2018.

【学会発表，各種講演・報告など】

1. 竹ノ内徳人：水産業の6次産業化ーマーケティングの面からー，平成30年度えひめ水産イノベーション・スキル修得講座，愛媛県宇和島市，6月(2018)
2. 竹ノ内徳人：新養殖魚スマの販売戦略，平成30年度愛媛大学大学院農学研究科・愛媛県農林水産研究所合同研修会，愛媛大学農学部，9月(2018)
3. 竹ノ内徳人：消費サイドからみる魚食普及と水産物販売促進の展望，地域漁業学会2018年度第60回大会・シンポジウム，近畿大学農学部，10月(2018)
4. 原田幸子・竹ノ内徳人・松井隆宏・中原尚智・三宅和彦・笠井雅也：徳島県シラス漁業・加工業の協業化に向けた課題と展望，地域漁業学会2018年度第60回大会，近畿大学農学部，10月(2018)
5. 松井隆宏・竹ノ内徳人・原田幸子・中原尚智・三宅和彦・笠井雅也：協業化に対する漁業者意識ー徳島県のシラス漁業を事例にー，地域漁業学会2018年度第60回大会，近畿大学農学部，10月(2018)
6. 竹ノ内徳人：総合討論コーディネーター「愛南の「ぎょしょく教育」を展望する」，全国に広がる愛南発「ぎょしょく教育」～「ぎょしょく教育」の実績評価とこれから～，第9回愛南町水産フォーラム，愛南町，12月(2018)
7. 竹ノ内徳人・松井隆宏・鈴木幸子・中原尚智：徳島県下漁業経営体における法人化・協業化に関する意識調査ーアンケート調査結果よりー，徳島県漁業の協業化・法人化に向けた講習会，徳島県小松島市，3月(2019)

菅原卓也

【学会発表，各種講演・報告など】

1. 菅原卓也：褐藻類アカモクの保健機能について，第20回ジャパンインターナショナルシーフードショー，2018年8月22日。(東京ビッグサイト)
2. 河野美帆・石田萌子・西甲介・土居幹治・松本淳一・菅原卓也。カツオ節酵素分解物残渣の抗アレルギー効果に関する研究。日本農芸化学会2019年度大会。2019年3月26日。東京農工大学(東京)

小林真也

【学協会誌】

1. 水産業生産性向上のための海水温情報告知伝達システムの開発，阿草裕，藤橋卓也，遠藤慶一，黒田久泰，小林真也，情報処理学会 マルチメディア，分散，協調とモバイル(DICOMO2018)

シンポジウム予稿集, 2018年7月.

2. 水産業を支援するIoTサービス構築 - 宇和海海況情報サービス You see U-Sea -, 小林 真也, 情報処理学会学会誌「情報処理」, 60(2), 121-126, 2019年2月.
3. 養殖漁業の生産量安定化を目的とした稚魚数計数システムに関する一検討, 横田 蓮, 藤橋卓也, 遠藤慶一, 黒田久泰, 小林真也, 情報処理学会第81回全国大会予稿集, 2019年3月.

【学会発表, 各種講演・報告など】

1. 講演「IoTで水産を支援する宇和海海況情報サービス You see U-Sea」, 小林 真也, 黒田 久泰, 遠藤 慶一, 藤橋 卓也, 平成30年度豊後水道研究集会, 2018年8月.
2. 講演「愛媛の水産業をIoTが支援する」, 小林 真也, 黒田 久泰, 遠藤 慶一, 藤橋 卓也, 他, えひめICTトレンドセミナー, 2018年7月25日.

斎藤大樹

【著 書】

1. Taiju Saito, Rie Goto, Nicola Rivers, Etsuro Yamaha. Production of germ-line chimeras in zebrafish *Methods Mol Biol.* 2019;1920:327-341. doi: 10.1007/978-1-4939-9009-2_20.
2. Rie Goto, Taiju Saito, Takahiro Matsubara, Etsuro Yamaha. Microinjection of Marine Fish Eggs. *Methods Mol Biol.* 2019;1874:475-487. doi: 10.1007/978-1-4939-8831-0_27.

【学協会誌】

1. Saito, T., Guralp, H., Iegorova, V., Rodina, M., Psenicka, M. Elimination of primordial germ cells in sturgeon embryos by UV-irradiation. *Biol Reprod.* 2018 Sep 1;99(3):556-564. doi: 10.1093/biolre/iy076.
2. Pocherniaieva K, Sidova M, Havelka M, Saito T, Psenicka M, Sindelka R, Kaspar V. (2018) Comparison of oocyte mRNA localization patterns in sterlet *Acipenser ruthenus* and African clawed frog *Xenopus laevis*. *J Exp Zool B Mol Dev Evol.* 330(3):181-187. doi: 10.1002/jez.b.22802. Epub 2018 Apr 23.
3. Viktoriia Iegorova, Miloš Havelka, Martin Psenicka, Taiju Saito. (2018) First evidence of viable progeny from three interspecific parents in sturgeon. *Fish Physiology and biochemistry. Fish Physiol Biochem.* 2018 Dec;44(6):1541-1550. doi: 10.1007/s10695-018-0553-6. Epub 2018 Sep 19.
4. Diógenes Henrique de Siqueira-Silva, Taiju Saito, Amanda Pereira dos Santos-Silva, Raphael da Silva Costa, Martin Psenicka, George Shigueki Yasui. (2018) Biotechnology applied to fish reproduction: tools for conservation. *Fish Physiol Biochem.* 2018 Dec;44(6):1469-1485. doi: 10.1007/s10695-018-0506-0.
5. Viktoriia Iegorova, Martin Psenicka, Ievgen Lebeda, Marek Rodina, Taiju Saito. (2018) Polyspermy produces viable haploid/diploid mosaics in sturgeon. *Biology of Reproduction.* 2018 Oct 1;99(4):695-706. doi: 10.1093/biolre/iy092.
6. Kseniia Pocherniaieva, Hilal Güralp, Taiju Saito, Martin Pšenička, Tomáš Tichopád, Karel Janko, Vojtěch Kašpar. (2018) The Timing and Characterization of Maternal to Zygote Transition and Mid-Blastula Transition in Sterlet *Acipenser ruthenus* and *A. ruthenus* x *Acipenser gueldenstaedtii* Hybrid. *Turkish Journal of Fisheries and Aquatic Sciences.* DOI: 10.4194/1303-2712-v19_02_09

【報告書等】

1. 斎藤大樹 (小課題担当): 平成28年度革新的技術開発・緊急展開事業 (うち地域戦略プロジェクト) 新規マグロ類「スマ」の育種・完全養殖生産システムによる新産業創出と拡大. 平成30年度研究報告書. 2019年2月.
2. 斎藤大樹 (代表): 科学研究費補助金【基盤研究C】. 代理親効果による配偶子特性の改変. 平成29年度研究報告書. 2018年5月.

【学会発表，各種講演・報告等】

1. Taiju Saito. Surrogate production in fish. Workshop on biotechnology in aquatic science. May 9-10, 2018, Istanbul, Turkey.
2. Goto, R., Pandey D., Kawata, R., Hayakawa T., Kazeto Y., Gen K., Sakuma T., Yamamoto T., Saito T., Matsubara T. Genome-editing using TALENs in kawakawa, *Euthynnus affinis*. 3rd aquaculture conference, 25-28 September, 2018, Qindao, China.
3. Rie Goto, Taketo Hayakawa, Dipak Pandey, Kentaro Nakajima, Hirofumi Yamashita, Taiju Saito and Takahiro Matsubara. Induction of sterilized host by knockdown of dead end gene in kawakawa *Euthynnus affinis* for the surrogate propagation. Eighth International Symposium On Vertebrate Sex Determination. Kona, Hawaii, April 16-20, 2018. (April 18 poster session)
4. 斎藤大樹, Miloš Havelka, 西宮攻, 澤山英太郎, 後藤理恵, 松原孝博. 幾何学的形態計測によるスマ *Euthynnus affinis* の形態評価の試み. 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 平成 31 年 3 月 29 日. 東京海洋大学 (品川キャンパス).
5. Tapas Chakraborty, Sipra Mohapatra, Eitaro Sawayama, Taiju Saito, Rie Goto, Motohiro Takagi, Yukinori Kazeto, Takahiro Matsubara. Germ line stem cell and Generation-next breeding attempt in kawakawa, *Euthynnus affinis*. 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 平成 31 年 3 月 27 日. 東京海洋大学 (品川キャンパス).
6. Dipak Pandey, Rie Goto, Taiju Saito, Yukinori Kazeto, Koichiro Gen, Tetsushi Sakuma, Takashi Yamamoto, Takahiro Matsubara. TALEN-mediated gene editing of *slc24a5* (solute carrier family 24, member 5) in kawakawa, *Euthynnus affinis*. 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 平成 31 年 3 月 28 日. 東京海洋大学 (品川キャンパス).

Tapas Chakraborty

【著書】

1. Chakraborty T., Mohapatra S., Wanglar C. and Pandey D. (2019). Applied Molecular Cloning: Present and Future for Aquaculture [Online First], IntechOpen, DOI: 10.5772/intechopen.88197.

【学協会誌】

1. M. A. N. Reza, S. Mohapatra, S. Shimizu, S. Kitamura, S. Harakawa, H. Kawakami, K. Nakayama, E. Sawayama, T. Matsubara, K. Ohta, T. Chakraborty (2018). Molecular cloning, characterization and expression analysis of complement components in red sea bream (*Pagrus major*) after *Edwardsiella tarda* and red sea bream Iridovirus (RSIV) challenge. Fish and Shellfish Immunology. 82:286-295 [Corresponding author]. PMID:30125707
2. S. Sun, J. Cai, W. Tao, L. Wu, Tapas Chakraborty, L. Y. Zhou, D. S. Wang (2018). Comparative transcriptome profiling and characterization of gene expression for ovarian differentiation under RU486 treatment. General and Comparative Endocrinology. 261: 166-173 [#Authors contributed equally, Corresponding author]. PMID:29510151

【学会発表】

1. Ohta K, Mitome K, Fujita J, Chakraborty T, Mohapatra S, Matsuyama M, Germline stem cells in the sex changing fish, *Pseudolabrus sieboldi*, Inaugural Yanagimachi Symposium, 2018.08.
2. Tapas Chakraborty, S. Mohapatra, T. Matsubara, K. Ohta, Y. Nagahama (2018). 11th International Symposium on Reproductive Physiology of Fish (ISRPF), Manaus, Brazil. “Sexual spectrum of germline stem cells in fish” .

3. S. Mohapatra, Tapas Chakraborty, D. Pandey, T. Matsubara, K. Ohta (2018). 11th International Symposium on Reproductive Physiology of Fish (ISRPF), Manaus, Brazil. “Exploring the potentiality of autophagy in fish fertility”

Sipra Mohapatra

【著書】

1. Chakraborty T., Mohapatra S., Wanglar C. and Pandey D. (2019). Applied Molecular Cloning: Present and Future for Aquaculture [Online First], IntechOpen, DOI: 10.5772/intechopen.88197.

【学協会誌】

1. M. A. N. Reza, S. Mohapatra, S. Shimizu, S. Kitamura, S. Harakawa, H. Kawakami, K. Nakayama, E. Sawayama, T. Matsubara, K. Ohta, T. Chakraborty (2018). Molecular cloning, characterization and expression analysis of complement components in red sea bream (*Pagrus major*) after *Edwardsiella tarda* and red sea bream Iridovirus (RSIV) challenge. Fish and Shellfish Immunology. 82:286-295 [Corresponding author]. PMID:30125707

【学会発表】

1. Ohta K, Mitome K, Fujita J, Chakraborty T, Mohapatra S, Matsuyama M, Germline stem cells in the sex changing fish, *Pseudolabrus sieboldi*, Inaugural Yanagimachi Symposium, 2018.08.
2. Tapas Chakraborty, S. Mohapatra, T. Matsubara, K. Ohta, Y. Nagahama (2018). 11th International Symposium on Reproductive Physiology of Fish (ISRPF), Manaus, Brazil. “Sexual spectrum of germline stem cells in fish” .
3. S. Mohapatra, Tapas Chakraborty, D. Pandey, T. Matsubara, K. Ohta (2018). 11th International Symposium on Reproductive Physiology of Fish (ISRPF), Manaus, Brazil. “Exploring the potentiality of autophagy in fish fertility”

Miloš Havelka

【著書】

1. Hybridization and polyploidization in sturgeon. Miloš Havelka, Katsutoshi Arai. In: Sex Control in Aquaculture (Wang, H.P., F. Piferrer, S.L. Chen, Z.G. Shen Eds.). doi:10.1002/9781119127291.ch34, pp. 669-687 (2018).

【学協会誌】

1. Influence of interspecific hybridization on fitness-related traits in Siberian sturgeon and Russian sturgeon. Sahana Shivaramu, Doi Thi Vuong, Miloš Havelka, Hana Šachlová, Ievgen Lebeda, Vojtěch Kašpar, Martin Flajšhans. Czech Journal of Animal Science, 64, (2): 78-88, 2019.
2. A new marker, isolated by ddRAD sequencing, detects Siberian and Russian sturgeon in hybrids. Miloš Havelka, Elisa Boscari, Alexey Sergeev, Nikolai Mague, Leonardo Congiu, Katsutoshi Arai. Animal Genetics, 50(1): 115-116, 2019.
3. First evidence of viable progeny from three interspecific parents in sturgeon. Viktoriia Iegorova, Miloš Havelka, Martin Psenicka, Taiju Saito. Fish Physiology and Biochemistry, 44(6): 1541-1550. 2018.
4. Comparison of oocyte mRNA localization patterns in sterlet *Acipenser ruthenus* and African clawed frog *Xenopus laevis*. Kseniia Pocherniaieva, Monika Sidova, Miloš Havelka, Taiju Saito, Martin Psenicka, Radek Sindelka, Vojtech Kaspar. Journal of Experimental Zoology Part B: Molecular and Developmental Evolution, 330(3): 181-187, 2018.
5. Application of interspecific Somatic Cell Nuclear Transfer (iSCNT) in sturgeons and an unexpectedly

produced gynogenetic sterlet with homozygous quadruple haploid. Effrosyni Fatira, Miloš Havelka, Catherine Labbé, Alexandra Depincé, Viktoriia Iegorova, Martin Pšenička, Taiju Saito. Scientific Reports 8, 5997, 2018.

澤山英太郎

【学協会誌】

1. Eitaro Sawayama, Masayoshi Matsushige, Motohiro Takagi: Polymorphisms of the growth hormone gene in domesticated red sea bream populations (*Pagrus major*) based on minisatellite genotypes and nucleotide sequences. *Aquaculture Research*, 49, 2833-2843, 2018 年 6 月
2. Shiro Itoi, Miwa Suzuki, Kiyoshi Asahina, Eitaro Sawayama, Junki Nishikubo, Hikaru Oyama, Mitsuki Takei, Nanae Shiibashi, Tomohiro Takatani, Osamu Arakawa, Haruo Sugita: Role of maternal tetrodotoxin in survival of larval pufferfish. *Toxicon*, 148, 95-100, 2018 年 6 月
3. Eitaro Sawayama, Daiki Noguchi, Kei Nakayama, Motohiro Takagi: Identification, characterization, and mapping of a novel SNP associated with body color transparency in juvenile red sea bream (*Pagrus major*). *Marine Biotechnology*, 20, 481-489, 2018 年 8 月
4. 澤山英太郎：マダイ・ヒラメの実践的遺伝育種研究. *日本水産学会誌*, 84, 618-621, 2018 年 8 月
5. Shiro Itoi, Hiroyuki Ueda, Riko Yamada, Mitsuki Takei, Tatsunori Sato, Shotaro Oshikiri, Yoshiki Wajima, Ryuya Ogata, Hikaru Oyama, Takahiro Shitto, Kazuya Okuhara, Tadasuke Tsunashima, Eitaro Sawayama, Haruo Sugita: Including planocercid flatworms in the diet effectively toxifies the pufferfish, *Takifugu niphobles*. *Scientific Reports*, 8, 12302, 2018 年 8 月
6. Mohammad Ali Noman Reza, Sipra Mohapatra, Sonoko Shimizu, Shin-Ichi Kitamura, Shogo Harakawa, Hidemasa Kawakami, Kei Nakayama, Eitaro Sawayama, Takahiro Matsubara, Kohei Ohta, Tapas Chakraborty: Molecular cloning, characterization and expression analysis of complement components in red sea bream (*Pagrus major*) after *Edwardsiella tarda* and red sea bream Iridovirus (RSIV) challenge. *Fish and Shellfish Immunology*, 82, 286-295, 2018 年 8 月

【学会発表, 各種講演・報告など】

1. Eitaro Sawayama, Yoshihiro Handa, Kei-ichiro Nakano, Daiki Noguchi, Hayato Usui, Miwa Suzuki, Kiyoshi Asahina, Motohiro Takagi. A novel missense mutation in DUOXA2 causing body color transparency in juvenile red sea bream (*Pagrus major*). *International Symposium of Genetics in Aquaculture*, Cairns, 7 月, 講演要旨集: GDS7. (2018)
2. 澤山英太郎. 養殖親魚の品質を DNA で見極める. *日本水産学会 水産増殖懇話会講演会*, 広島, 9 月. (2018)
3. 澤山英太郎, 赤瀬友里. 養殖ヒラメの性判別 DNA マーカーの開発と性決定機構に関する考察. *日本水産学会秋季大会*, 広島, 9 月. (2018)
4. 澤山英太郎. マダイにおけるミオスタチン遺伝子の塩基多型と成長との関連. *平成 31 年度日本水産学会春季大会*, 東京, 3 月. (2019)
5. Miloš Havelka, Eitaro Sawayama, Taiju Saito, Motohiro Takagi, Rie Goto, Takahiro Matsubara. Non-invasive method for DNA sampling in kawakawa, a tuna-like species. *平成 31 年度日本水産学会春季大会*, 東京, 3 月, 講演要旨集: 171. (2019)

Pandey Dipak

【著書】

1. Chakraborty T., Mohapatra S., Wanglar C. and Pandey D. (2019). Applied Molecular Cloning: Present and Future for Aquaculture [Online First], IntechOpen, DOI: 10.5772/intechopen.88197.

【学会発表】

1. Pandey D., Goto R., Saito T., Kazeto Y., Gen K., Sakuma T., Yamamoto T. and Matsubara T. (2019). TALEN-mediated gene editing of *slc24a5* (solute carrier family 24, member 5) in kawakawa, *Euthynnus affinis*. Spring meeting of Japanese Society of Fisheries Science. March 28, 2019.

西宮 攻

【学協会誌】

1. Mushirobira, Y., Nishimiya, O., Nagata, J., Todo, T., Hara, A., Reading, B.J., Hiramatsu, N. Molecular cloning of vitellogenin gene promoters and in vitro and in vivo transcription profiles following estradiol-17 β administration in the cutthroat trout. *Gen Comp Endocrinol.* 267:157-166. Doi: 10.1016/j.ygcen.2018.06.017. 2018 Oct 1
2. Yamamoto, R., Minami, H., Matsusaki, H., Sakashita, M., Morita, N., Nishimiya, O., Tsutsumi N, Hosokawa, M, Itabashi, Y, Matsui, T, Ura, K. Consumption of the edible sea urchin *Mesocentrotus nudus* attenuates body weight gain and hepatic lipid accumulation in mice. *J Funct Foods.* 47:40-47. Doi: 10.1016/j.jff.2018.04.063. 2018 Aug 28

【学会発表, 各種講演・報告等】

1. 斎藤大樹, Miloš Havelka, 西宮攻, 澤山英太郎, 後藤理恵, 松原孝博. 幾何学的形態計測によるスマ *Euthynnus affinis* の形態評価の試み. 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 平成 31 年 3 月 29 日. 東京海洋大学 (品川キャンパス).
2. 永田淳, 薙平裕次, 西宮攻, 藤田敏明, 平松尚志, 原彰彦, 東藤孝. カットスロートトラウト肝臓で発現するエストロジェン応答性遺伝子のプロモーター解析. 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 平成 31 年 3 月 29 日. 東京海洋大学 (品川キャンパス).
3. Nishimiya O., Matsubara T. Introduction of the new MEXT project: Local Innovation-Ecosystem Generation Program “Establish of the next generation breeding system for a tuna species, kawakawa *Euthynnus affinis*. The 15th International Meeting on Reproductive Biology of Aquatic Animals of the East China Sea. 30 Aug – 1 Sep, 2018, Hokkaido, Japan
4. Yuhi T., Nishimiya O., Teraoka Y., Gotoh T., Higuchi I., Ura K., Takagi Y. Identification of Vtg-like protein in sea urchin. The 15th International Meeting on Reproductive Biology of Aquatic Animals of the East China Sea. 30 Aug – 1 Sep, 2018, Hokkaido, Japan

5. 学会及び審議会・委員会等の活動(専任教員・2018年度)

武岡英隆

【学協会役職】

1. 日本海洋学会評議員
2. 日本海洋学会三賞選考委員
3. 日本海洋学会沿岸海洋研究会顧問
4. 瀬戸内海研究会議理事

【各種審議会・委員会委員等】

1. 日本学術振興会 科学研究費専門員会委員
2. 独立行政法人科学技術振興機構 研究成果最適展開支援プログラム専門委員
3. 愛媛県環境創造センター客員研究員
4. 愛媛県環境影響評価審査会委員
5. 国際エメックスセンター アドバイザー

松原孝博

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 環境省 化学物質の内分泌かく乱作用に係る試験法の確立等に関する検討委員
2. 農林水産省 「イノベーション創出強化研究推進事業」評価委員
3. 愛南漁業協同組合, 非常勤監事

後藤理恵

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 浜の活力再生プラン 愛南地区地域水産業再生委員会委員
2. 愛南町ぎょしょく教育普及推進協議会委員
3. 外国人技能実習制度 JITRO 監査 (愛南漁業協同組合)
4. 愛媛県立南宇和高等学校評議員

高木基裕

【学協会役職 (理事・委員等)】

1. 水産育種研究会幹事
2. 日本水産学会中国四国支部幹事
3. 日本水産学会水産増殖懇話会委員
4. 日本水産増殖学会評議員

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛県内水面漁場管理委員会委員
2. 愛媛県科学技術振興会議農林水産評価専門部会委員
3. 四国西予ジオミュージアム展示内容検討委員会委員
4. 愛媛県野生生物保護推進員

若林良和

【学協会役職（理事・委員等）】

1. 日本カツオ学会 顧問
2. 地域漁業学会 理事
3. 漁業経済学会 理事
4. 日本食育学会 理事
5. 地域漁業学会 学会誌編集委員会 委員長
6. 日本食育学会 学会誌編集委員会 委員

【併任，各種審議会・委員会委員など】

1. 大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所 共同研究員
2. 水産庁民間団体補助金交付候補者選定審査委員会 委員
3. 愛媛県愛南町ぎょしょく普及推進協議会 委員
4. 愛媛県愛南町食育推進協議会 委員
5. 愛媛県愛南町食育協働部会 副会長
6. 愛媛県愛南町次世代水産業振興ネットワークシステム推進協議会 委員
7. 愛媛県今治市食育推進協議会 顧問
8. 鹿児島県枕崎市枕崎カツオマイスター検定推進協議会 委員
9. 鹿児島県枕崎市枕崎カツオマイスター検定委員会 委員長
10. 鹿児島県指宿市山川水産加工業協同組合女性部 顧問
11. 株式会社テレビ愛媛番組審議会 委員
12. 華宵会（高島華宵大正ロマン館） 運営委員

竹ノ内徳人

【学協会役職（理事・委員等）】

1. 漁業経済学会理事
2. 地域漁業学会理事

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛県・愛媛海区漁業調整委員会・委員
2. 四国西予ジオミュージアム（仮称）展示内容検討委員会・委員
3. 徳島県水産振興ビジョン策定委員会・委員長

6. 教育活動(専任教員・2018年度)

松原孝博

【指導学生】

大学院農学研究科・修士課程

(主指導) : 1名

大学院連合農学研究科・博士課程

(主指導) : 2名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文 : 2件

- ・陸上水槽におけるカワハギ親魚の成長特性の解析と人工授精技術開発の試み
- ・アオリイカの種苗生産および輸送技術に関する基盤研究遺伝的多様性および血清中総炭水化物含量を用いたアコヤガイ母貝育種に関する研究

修士論文 : 1件

- ・スマ生殖腺の発達過程及び不妊化誘導技術に関する研究

【担当授業科目(本学関係)】

1. 前学期, 水産生物学(主担), 社会共創学部
2. 前学期, 養殖学(主担), 社会共創学部
3. 前学期, 海洋生産科学Ⅰ(分担), 社会共創学部
4. 前学期, 海洋生産科学セミナーⅠ(分担), 社会共創学部
5. 前学期, 水圏生産学特論(分担), 社会共創学部
6. 前学期, 水産生物環境学(主担), 社会共創学部
7. 後学期, 産業イノベーションセミナーⅠ(分担), 社会共創学部
8. 前学期, プロジェクト基礎演習(主担), 社会共創学部
9. 前学期, プロジェクト実践演習(主担), 社会共創学部
10. 後学期, プロジェクト応用演習(主担), 社会共創学部
11. 後学期, 地域産業調査(分担), 社会共創学部
12. 前学期集中, 産業技術調査(分担), 社会共創学部
13. 後学期, 海洋生産科学概論(分担), 社会共創学部
14. 後学期, 新入生セミナーB(分担), 社会共創学部
15. 前学期集中, 社会共創演習Ⅰ(分担), 社会共創学部
16. 集中, インターンシップ実践(主担), 社会共創学部
17. 集中, インターンシップ応用(主担), 社会共創学部
18. 集中, 次世代水産イノベーション論(主担), 社会共創学部
19. 後学期, 水圏生命科学Ⅰ(主担), 大学院農学研究科
20. 前学期集中, 水圏生命科学Ⅱ(分担), 大学院農学研究科
21. 集中, 水圏生産学演習Ⅰ(分担), 大学院農学研究科
22. 集中, 水圏生産学実験Ⅰ(分担), 大学院農学研究科
23. 集中, 水圏生産学演習Ⅱ(分担), 大学院農学研究科
24. 集中, 水圏生産学実験Ⅱ(分担), 大学院農学研究科

【その他】

1. 愛媛県立宇和島南中等教育学校スーパーグローバルハイスクール事業SGH 事業課題研究講師

2. 愛南町小学校出前授業「チリメンモンスター」小学校講師
3. 愛南町一本松中学校出前授業「藻塩」講師

後藤理恵

【指導学生】

大学院農学研究科・修士課程

(副指導) : 1名

大学院連合農学研究科・博士課程

(副指導) : 2名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文 : 1件

- ・スマの生殖腺保存プロトコルの確立に向けて

【担当授業科目 (本学関係)】

1. 前学期, 水産生物学 (分担), 社会共創学部
2. 前学期, 養殖環境保全学 (分担), 社会共創学部
3. 前学期, 海洋生産科学 I (主担), 社会共創学部
4. 前学期, 海洋生産科学セミナー I (主担), 社会共創学部
5. 前学期, 水圏生産学特論 (分担), 社会共創学部
6. 後学期, 水族生理学 (主担), 社会共創学部
7. 後学期, 産業イノベーションセミナー I (分担), 社会共創学部
8. 前学期, プロジェクト基礎演習 (分担), 社会共創学部
9. 前学期, プロジェクト実践演習 (分担), 社会共創学部
10. 後学期, プロジェクト応用演習 (分担), 社会共創学部
11. 後学期, 地域産業調査 (分担), 社会共創学部
12. 前学期集中, 産業技術調査 (分担), 社会共創学部
13. 後学期, 海洋生産科学概論 (分担), 社会共創学部
14. 後学期, 新入生セミナー B (分担), 社会共創学部
15. 前学期集中, 社会共創演習 I (分担), 社会共創学部
16. 集中, インターンシップ実践 (分担), 社会共創学部
17. 集中, インターンシップ応用 (分担), 社会共創学部
18. 集中, 次世代水産イノベーション論 (分担), 社会共創学部
19. 後学期, 水圏生命科学 I (主担), 大学院農学研究科
20. 前学期集中, 水圏生命科学 II (主担), 大学院農学研究科
21. 集中, 水圏生産学演習 I (分担), 大学院農学研究科
22. 集中, 水圏生産学実験 I (分担), 大学院農学研究科
23. 集中, 水圏生産学演習 II (分担), 大学院農学研究科
24. 集中, 水圏生産学実験 II (分担), 大学院農学研究科

【その他】

1. 愛媛県立宇和島南中等教育学校スーパーグローバルハイスクール事業 SGH 事業課題研究講師.

高木基裕

【指導学生】

大学院農学研究科・修士課程

(主指導) : 2名

大学院連合農学研究科・博士課程

(主指導) : 2名

(副指導) : 4名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

修士論文 : 1件

・ 遺伝標識を用いた広島県東部海域におけるガザミ種苗放流の評価

博士論文 : 1件

・ 遺伝的多様性および血清中総炭水化物含量を用いたアコヤガイ母貝育種に関する研究

【担当授業科目 (本学関係)】

1. 前学期, 水圏資源環境学概論 (分担), 農学部
2. 前後学期, 水族保全学実習, 農学部
3. 前後学期, 環境保全セミナー, 農学部
4. 前後学期, 卒業研究, 農学部
5. 前後学期, 海洋生産科学 III, 農学部
6. 前後学期, 海洋生産科学 V, 農学部
7. 後学期, 環境保全学概論 (分担), 農学部
8. 後学期, 生物学, 農学部
9. 後学期, 環境分子生物学, 農学部
10. 後学期, 水産生物学, 農学部
11. 後学期, 環境保全学実験 III (分担), 農学部
12. 前学期, 環境保全学特論 (分担), 大学院農学研究科
13. 前後学期, 環境保全学特別演習 I, 大学院農学研究科
14. 前後学期, 環境保全学特別実験 I, 大学院農学研究科
15. 前後学期, 研究プレゼンテーション III, 大学院農学研究科
16. 前後学期, 生物環境保全学演習 II, 大学院農学研究科
17. 前後学期, 生物環境保全学実験 II, 大学院農学研究科
18. 後学期, 保全遺伝学, 大学院農学研究科
19. 後学期, 海洋生産科学概論 (分担), 社会共創学部

清水園子

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文 : 2件

・ 愛南町御荘湾における有害赤潮プランクトン *Cochlodinium polykrikoides* の挙動解析

・ 養殖現場におけるマダイ感染症疾病の早期検出法の開発

【担当授業科目 (本学関係)】

1. 前学期 養殖環境保全学 (分担), 社会共創学部
2. 前学期 水産生物学 (分担), 社会共創学部
3. 前学期, 産業技術調査 (分担), 社会共創学部

4. 前学期, プロジェクト実践演習 (分担), 社会共創学部
5. 前学期, 海洋生産科学 I (分担), 社会共創学部
6. 前学期, 海洋生産科学セミナー I (分担), 社会共創学部
7. 後学期, 海洋生産科学概論 (分担), 社会共創学部
8. 後学期, 水族生理学 (分担), 社会共創学部
9. 後学期, 地域産業概論 (分担), 社会共創学部
10. 後学期, プロジェクト基礎演習 (分担), 社会共創学部
11. 後学期, プロジェクト応用演習 (分担), 社会共創学部
12. 後学期, 産業イノベーションセミナー I (分担), 社会共創学部
13. 通年, インターンシップ実践 (分担), 社会共創学部
14. 通年, 社会共創演習 I (分担), 社会共創学部

若林良和

【指導学生】

社会共創学部海洋生産科学コース

(3年生) : 6名

大学院農学研究科・修士課程

(副指導・副査) : 1名

大学院連合農学研究科・博士課程

(主指導・主査) : 1名

【担当授業科目 (本学関係)】

1. 前学期, こころと健康<食と健康> (分担), 共通教育
2. 前学期, 新入生セミナー A (分担), 共通教育 (社会共創学部)
3. 前学期, 社会共創学概論 (分担), 社会共創学部
4. 前学期, プロジェクト実践演習 (分担), 社会共創学部
5. 前学期, 産業イノベーションセミナー II (分担), 社会共創学部
6. 前学期, 産業イノベーション論 (分担), 社会共創学部
7. 前学期, 質的データの収集と分析 (分担), 社会共創学部
8. 前学期, 産業技術調査: 集中講義 (分担), 社会共創学部
9. 前学期, 産業経済論 (分担), 社会共創学部
10. 前学期, 水産社会学, 社会共創学部
11. 前学期, 海洋生産科学 I (分担), 社会共創学部
12. 前学期, 海洋生産科学セミナー I (分担), 社会共創学部
13. 前学期, 海洋生産科学 II (分担), 社会共創学部
14. 前学期, 海洋生産科学セミナー II (分担), 社会共創学部
15. 前学期, 農山漁村論 (分担), 社会共創学部
16. 前学期, 基礎農業経営経済学 (分担), 農学部
17. 前学期, 水産社会論, 農学部
18. 前学期, 水圏生産学特論 (分担), 大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
19. 前学期, 水圏生産学演習 I (分担), 大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
20. 前学期, 水圏生産学実験 I (分担), 大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
21. 前学期, 水圏生産学演習 II (分担), 大学院農学研究科 (水圏生産学コース)

22. 前学期, 水圏生産学実験Ⅱ (分担), 大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
23. 前学期, 食料生産経営学Ⅰ (分担), 大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
24. 前学期, 食料生産経営学演習Ⅰ (分担), 大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
25. 前学期, 食料生産経営学演習Ⅱ (分担), 大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
26. 前学期, 食料生産経営学特別演習Ⅰ (分担), 大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
27. 後学期, 地域調査法入門 (分担), 社会共創学部
28. 後学期, プロジェクト基礎演習 (分担), 社会共創学部
29. 後学期, プロジェクト応用演習 (分担), 社会共創学部
30. 後学期, 産業イノベーションセミナーⅠ (分担), 社会共創学部
31. 後学期, 海洋生産科学概論 (分担), 社会共創学部
32. 後学期, 地域産業概論 (分担), 社会共創学部
33. 後学期, 産業文化論, 社会共創学部
34. 後学期, 水圏社会科学Ⅰ, 大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
35. 後学期, 水産社会学, 大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
36. 後学期, 水圏生産学演習Ⅰ (分担), 大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
37. 後学期, 水圏生産学実験Ⅰ (分担), 大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
38. 後学期, 水圏生産学演習Ⅱ (分担), 大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
39. 後学期, 水圏生産学実験Ⅱ (分担), 大学院農学研究科 (水圏生産学コース)
40. 後学期, 食料生産経営学Ⅱ (分担), 大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
41. 後学期, 農山村調査 (集中・分担), 大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
42. 後学期, 食料生産経営学演習Ⅲ (分担), 大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
43. 後学期, 食料生産経営学演習Ⅳ (分担), 大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)
44. 後学期, 食料生産経営学特別演習Ⅱ (分担), 大学院農学研究科 (食料生産経営学コース)

【他大学等での講義】

1. 高知大学教育学部 (社会学概論・社会学, 集中)
2. 高知大学医学部 (家族社会学, 集中)
3. 高知大学農林海洋科学部 (海洋科学概論 (分担), 集中)
4. 松山大学人文学部・経済学部・経営学部・法学部 (文化人類学, 通年)
5. 松山看護専門学校 (文化人類学, 後学期)
6. 愛媛県立宇和島南中等教育学校 SGH 事業 (課題研究テーマの指導, 集中)

竹ノ内徳人

【指導学生】

農学部学生 (3年生) : 4名

(4年生) : 4名

大学院農学研究科・修士課程

(主指導) : 1名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文 : 4件

- ・水産物流通における小売業の価値創造
- ・「愛育フィッシュ」の可能性と地域ブランドの展望
- ・産地直売所のプラットフォーム論によるから生産者への影響の考察

・愛媛県産みかんフィッシュのプラットフォーム論による考察
修士論文：1件

・産官学連携による新規養殖魚種サツキマス創出と今後の展望
～町内一貫生産による地域包括的取り組みを事例として～

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，専攻セミナーⅡ，農学部
2. 前学期，現代社会と資源・環境問題（分担）1年生，農学部
3. 前学期，水圏資源環境学概論（分担），農学部
4. 前学期，水産社会科学演習（分担），農学部
5. 前学期，食文化協働論，農学部
6. 前学期，海域社会経済論，農学部
7. 後学期，農業情報処理論，農学部
8. 後学期，資源・環境政策調査セミナー，農学部
9. 後学期，政策学概論（分担），農学部
10. 後学期，地域農林漁業論（分担），農学部 ※農山漁村マネジメントコース
11. 後学期，専攻セミナーⅡ，農学部
12. 後学期，食育計画演習（分担），農学部
13. 前学期，資源・環境政策学演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科
14. 前学期，資源・環境政策学Ⅰ（分担），大学院農学研究科
15. 前学期，資源・環境政策学演習Ⅲ（分担），大学院農学研究科
16. 前学期，資源・環境政策学特別演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科
17. 前学期，資源・環境政策学Ⅲ（分担），大学院農学研究科
18. 前学期，海洋生産科学研究（分担），大学院農学研究科
19. 後学期，海域社会論，大学院農学研究科
20. 後学期，資源・環境政策学演習Ⅱ（分担），大学院農学研究科
21. 後学期，資源・環境政策学Ⅳ（分担），大学院農学研究科
22. 通年，資源・環境政策学ケーススタディ（分担），大学院農学研究科

【他大学等での講義】

- ・松山短期大学 「食品マーケティング論Ⅰ・Ⅱ」（通年）
- ・高知大学 「水産社会経済学」（集中）

7. 地域・社会連携活動(2018年度)

(1) センター主催，共催，後援行事等

1. ぎゅぎゅっと愛南夏の陣 参加 5月27日
2. 南予水産研究センター地域連携推進会議 6月26日，
1月21日
3. 愛南町水産業振興懇話会 参加 7月12日，3月5日
4. 南予水産研究センター設立10周年記念式典開催
12月3日



設立10周年記念式典

(2) 地域特別研究員との共同研究

研究題目

- 新規養殖生物の開発
- 魚類養殖現場で発生する病気について
- 魚類養殖現場で発生する病気について
- アコヤ貝種苗生産
- アコヤ貝種苗生産
- アコヤ貝種苗生産
- 「ぎょしょく」を基盤にした水産振興の研究
- 漁村における地域文化の研究
- 町内水産物の販売およびブランド化の研究
- 町内水産物の販売およびブランド化の研究

地域特別研究員

受入教員

清水 陽介	松原 孝博
吉原 勇作	松原 孝博
垣本 一真	松原 孝博
廣瀬 琢磨	高木 基裕
濱田 茂樹	高木 基裕
山本 次郎	高木 基裕
兵頭 重徳	若林 良和
藤本 吉信	若林 良和
濱 哲也	竹ノ内徳人
田中 雅宏	竹ノ内徳人

(3) 各種行事への参加

1. AED講習会参加 教職員学生10名程度 4月8日
2. 南宇和ライオンズクラブ主催海岸清掃ボランティア参加 教職員学生20名程度 5月31日
3. 愛南町トライアスロン大会ボランティア参加 教職員学生20名程度 6月8日
4. 第41回西浦湾ソフトバレーボール大会参加
教職員学生10名程度 7月1日
5. 御荘診療所夏まつり参加 学生5名程度
7月26日
6. 愛南町モニターツアー参加 外国人留学生研究員
5名程度 8月26日
7. 愛南町統一地方祭参加(船越，内泊地区) 教職員
学生15名程度 11月3日



海岸清掃ボランティア

(4) 地域連携教育

1. チリメンモンスターを探せ! 6月8日(城辺小学校)，6月15日(一本松小学校)
2. 体験型環境学習会一海遊びから学ぶ(学生講師参加) 6月9日および10月28日

3. 中学生 JOB チャレンジ（職場体験実習）受け入れ（御荘中学校）7月2～6日
4. 宇和島南中等教育学校 SGH 事業課題研究講師 7月12日，10月25日，1月17日，1月24日
5. 自然観察会 釣ったさかな調査隊（福浦小学校生対象）．南予水産研究センター，（講師：高木基裕）10月14日
6. 自然観察会 八幡浜の魚類・鳥類観察会（松山市小学生対象）．八幡浜水産物地方卸売市場，（講師：高木基裕）12月9日

(5) 一般向け講演等

武岡英隆

1. 愛媛水産イノベーションスキル修得講座，宇和海の漁場環境，南予水産研究センター西浦ステーション，7月21日
2. 愛媛大学社会連携フォーラム 2018 ～愛媛大学における地域専門人材育成とリカレント教育の展開～，地域を支える水産人材育成—愛媛水産イノベーションスキル修得講座，愛媛大学南加記念ホール，8月2日
3. 愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム，愛媛県の養殖業の課題と南予水産研究センターの取組，地域協働研究センター西条，8月25日
4. 赤潮の発生及び被害防止に係る勉強会，海流と赤潮の伝搬について—海の流れと赤潮，愛南町役場，10月16日

若林良和

1. 私たちにとって，必要な共創とは何か ～3つのキョウドウ（共同・協同・協働）から考える～．2018年度愛媛大学社会共創学部社会共創クリエイター育成プログラム，愛媛大学 CRI - 1（松山市），2018年4月22日．
2. 社会共創学的方法による課題解決例：「協働～共創」による地域活性化と産業振興．平成30年度愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム，愛媛大学地域協働センター西条（西条市），2018年9月29日
3. カツオ学（カツオ検定）へのいざない．第8回枕崎カツオマイスター検定，南薩地域地場産業振興センター（鹿児島県枕崎市），2018年11月24日．
4. 「魚職」でカツオを探る③．第7回枕崎カツオマイスター検定，南薩地域地場産業振興センター（鹿児島県枕崎市），2018年11月25日．
5. 地域資源を活かしたまちづくりと観光の可能性 パネルディスカッション「地域資源を活かしたまちづくりの可能性」コーディネーター．平成30年度愛媛大学公開講座 in 今治（愛媛大学 COC 企画運営部），みなと交流センター「はーぱりー」（今治市），2019年2月2日．

清水園子

1. 宇和島漁業協同組合 赤潮勉強会 講師 平成30年5月30日 宇和島市
2. 平成30年度愛南漁業協同組合 魚類養殖協議会総会 活動報告．平成30年6月14日 愛南町
3. 「海流と赤潮の伝搬について」．赤潮の発生及び被害防止に係る勉強会．平成30年10月16日，愛南町
4. 「赤潮・魚病対策技術の研究開発（これまでの成果とこれからの展望）」南予水産研究センタ

(6) 一般向け雑誌記事等

若林良和

1. これからの共創社会と価値の再生・創出 ー地域資源としてのカツオに関する実践からー. 21世紀 WAKAYAMA89 : 4-8 (2018.08)
2. えひめの魚を「ぎょしょく」で探る ーマダイとカツオのブランド化に向けた取り組みー. 文化愛媛 81 : 30-33 (2018.10)
3. 地域共創による価値の創出とブランド化 ー「ぎょしょく教育」と「カツオ産業文化」の視点からー. 調査研究情報誌 ECPR41 : 29-36 (2018.10)
4. これからの共創社会と価値の再生・創出 ー地域資源としてのカツオに関する実践からー. 経済情報 (紀陽銀行) 457 (2018年9月号) : 4-8 (2018.10)
5. 「ぎょしょく教育」活動の軌跡と新展開 ー水産分野における就学前食育の検討ー. 水産振興 612 (52-12) : 1-3, 4-8, 9-17, 57-106, 107-113 (2018.12)
6. 愛南町「食育施策評価システム」構築プロジェクト報告書 (受託事業報告書). 愛媛大学・愛南町 : 1-48 (2019.03)

清水園子

1. 「赤潮・魚病対策の新展開に向けた研究」 愛媛大学環境報告書 2018, p21, 平成 30 年 9 月発行
2. 「地域密着型研究センターで学ぶ 南予水産研究センター」ドット イー フォリオ, p. 9, 平成 31 年 1 月発行 (愛媛大学)

8. 新聞記事・テレビ出演等(2018年度)

若林良和

1. 初カツオ 監修. 食彩の王国, テレビ朝日系列, 2018年4月21日.
2. 新鮮で弾力のあるブランド魚「びやびやカツオ」 監修. ごはんジャパン, テレビ朝日系列, 2018年6月16日.
3. 愛媛発! 愛媛の食育応援団 えひめの魚を召し上がれ. 中四国ライブネット, 南海放送ラジオ, 2018年7月15日.
4. カツオ研究の醍醐味 (研究の経過・学術的な意義・日本カツオ学会の取り組み・カツオの食文化). TIPS 小林ノート, 南海放送ラジオ, 2018年7月8・16・23・30日.

清水園子

1. 「AIを利用した赤潮判定システムの開発」, あいテレビ「Nスタえひめ」, 2019年2月26日

竹ノ内徳人

1. NHK 昼からクローバー, おしえてひるクロ先生のコーナー, 2018年12月26日

菅原卓也

1. 南海放送 News チャンネル4 (2019年1月18日)「愛大と水産加工会社 海藻「アカモク」オリジナル商品」
2. 愛媛朝日テレビあいテレビ スーパーJチャンネルえひめ (2019年1月18日)「産学連携今注目の海藻アカモク 学生たちが商品開発!」
3. あいテレビ Nスタえひめ (2019年1月18日)「海藻で産学連携 アカモクの加工食品を開発」
4. 産経新聞 (2019年1月19日)「海の厄介者で健康に 愛媛大などアカモク商品化」
5. 愛媛新聞 (2019年1月19日)「海藻アカモクおいしく変身 愛媛大と朝日共販 つくだ煮など4商品 栄養豊富 特産品に」
6. 読売新聞 (2019年1月20日)「佐田岬のアカモクで食品 海の厄介者 一転 栄養豊富で注目 愛大生協力 ラー油など開発」
7. 日本経済新聞 (2019年1月31日)「アカモク伊方名産に 朝日共販, 愛媛大生と開発 海の厄介者栄養価高い海藻」
8. 毎日新聞 (2019年2月19日)「研究の現場から 海の厄介者アカモクで食品 菅原卓也・愛媛大院教授と学生, 加工会社と共同開発」
9. 日刊水産経済新聞 (2019年3月20日)「カツオ節に抗アレルギー作用, マルトモと愛媛大共同研究」

その他

1. 愛媛新聞 (2018年4月12日)「愛南サツキマス 挑戦5年目生存率向上 産官学試験養殖 出荷数増アジも好評」
2. 愛媛新聞 (2018年5月7日)「宇和海の情報漁業者に ICT活用し経営支援 水温や水質リアルタイム提供」
3. 愛媛新聞 (2018年6月5日)「希少生物生息の浜を住民が清掃 愛南」

4. 愛媛新聞（2018年6月8日）「女性発！水産物による地域づくり」
5. 愛媛新聞（2018年7月4日）「育てスマ 種苗生産挑戦 宇和島水産高データ収集開始 マダ
イで培った知識応用」
6. 愛媛新聞（2018年8月16日）「大型ブリ世界販路視野 宇和島で試食会 商品化の可能性探る」
7. 愛媛新聞（2018年9月4日）「サンゴや石垣の里満喫 愛南在住留学生ら 外国客増へモニター
観光」
8. 愛媛新聞（2018年10月19日）「宇和海赤潮 被害防げ 愛南 水産関係者が学習会」
9. 愛媛新聞（2018年10月30日）「住民ら 希少生物がすむ浜辺を清掃 愛南」
10. 愛媛新聞（2018年12月4日）「10周年 水産へ貢献さらに 愛媛大学南水研 愛南で記念式典」
11. 愛媛新聞（2019年3月10日）「古谷和夫氏を悼む 宇和海の養殖けん引 愛媛大学研究発展に
も寄与」

9. センター視察・来訪者(2018年度)

		人
2018年4月24日	高知大学	1
2018年4月25日	共立製菓(株)	2
2018年4月25日	西予市	2
2018年5月15日	愛南町立船越小学校	12
2018年5月16日	ライフピース	2
2018年5月18日	愛媛大学工学部	7
2018年5月30日	岡山理科大学	18
2018年6月19日	愛媛大学施設部	11
2018年6月19日	施設基盤部	6
2018年6月21日	(国研)水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所	2
2018年7月2,5日	御荘中学校	4
2018年8月10日	愛媛県立宇和島水産高等学校	3
2018年8月10日	愛媛県農林水産研究所	1
2018年8月21日	SUIJI	14
2018年8月24日	甲南大学	10
2018年9月14日	岡山理科大学	1
2018年9月21日	愛南町立家串小学校	15
2018年9月25日	社会共創学部	27
2018年10月15日	四国情報通信懇話会	30
2018年10月19日	愛南町立平城小学校	30
2018年10月24日	KDDI	5
2018年10月27日	弘前大学	2
2018年11月8日	三間公民館	15
2018年11月27日	長崎大学	3
2018年11月27日	鹿児島県三島村 広域水産業再生委員会	10
2018年12月18日	九州大学	1
2018年12月18日	(国研)水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所	2
2019年1月16日	福島イノベーションコース	1
2019年1月24日	サクラサイエンス(インドネシア)	12
2019年1月25日	岩手大学	1
2019年2月8日	社会連携推進機構	2
2019年2月13日	高知大学	1
2019年2月18日	四国太陽日酸(株)	2
2019年2月22日	社会共創学部	4
2019年2月22日	あいテレビ	3
2019年2月25日	一般の方	4
2019年2月26日	三重大学	1
2019年3月6日	愛南町立一本松保育所	40
2019年3月6日	伊方町役場	1

(総訪問者数 308人)

愛媛大学南予水産研究センター規則（平成30年4月1日改訂）

平成19年10月10日

規則第 152 号

（趣 旨）

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛県南宇和郡愛南町に置く愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目 的）

第2条 センターは、生命科学、環境科学及び社会科学による学際的な水産学研究の拠点を形成し、先端科学による漁場調査、水産養殖技術開発、水産業振興等について研究及び教育することにより、地域社会からの水産学への要望に応え、地域及び日本の水産業に貢献することを目的とする。

（研究部門）

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 生命科学研究部門
- (2) 環境科学研究部門
- (3) 社会科学研究部門

2 前条の目的を達成するため、必要に応じて、愛媛大学農学部にセンター分室を置くことができる。

（組 織）

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

（管理機関）

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、愛媛大学社会連携推進機構社会連携推進会議（以下「社会連携推進会議」という。）において審議する。

（運営委員会）

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

（センター長）

第7条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任教授又は特命教授のうちから社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第8条 副センター長候補者は、本学の専任の教授のうちから、センター長が当該教授の所属する学部等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された副センタ

一長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第9条 専任教員は、社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

(兼任教員)

第10条 兼任教員は、本学の専任の教員のうちから、当該教員の所属する学部等の長と協議の上、センター長が学長に推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第11条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長が不在又は事故あるときは、その職務を代行する。

3 専任教員は、センター長から指示されたセンターの業務を遂行する。

4 兼任教員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事する。

5 センター職員は、センターの業務に従事する。

(顧問)

第12条 センターに、顧問を置くことができる。

2 顧問は、センター長の推薦に基づき、社会連携推進機構長が委嘱する。

3 顧問の任期は1年以内とし、再任を妨げない。

(客員教授等)

第13条 センターに、客員教授又は客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、国立大学法人愛媛大学客員教授等称号付与規程の定めるところによる。

(研究員)

第14条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。

3 研究員は、本学の専任教員のうちからセンターの専任教員が推薦し、運営委員会の議を経て、学長が任命する。

4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第15条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

(地域特別研究員)

第16条 センターに、地域特別研究員を置くことができる。

2 地域特別研究員に関し必要な事項は、別に定める。

(地域連携推進室)

第17条 センターに、地域連携推進室を置く。

2 地域連携推進室に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第18条 センターに関する事務は、社会連携支援部社会連携課及び農学部事務課において処理する。

(雑則)

第19条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年7月25日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年9月11日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年6月11日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

愛媛大学南予水産研究センター運営委員会規程（平成30年4月1日改訂）

平成19年10月10日

規則第 153 号

（趣 旨）

第1条 この規程は、愛媛大学南予水産研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（審議事項）

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

（組 織）

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) 社会連携支援部長
- (6) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第6号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

（委員長）

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

（議 事）

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

（専門委員会）

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

（事 務）

第8条 運営委員会及び専門委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

（雑 則）

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定め

る。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

運営委員名簿

番号	区分	所属部局	職名	氏名
1	1号委員	南予水産研究センター	センター長	武岡英隆
2	2号委員	南予水産研究センター	副センター長	松原孝博
3	3号委員	南予水産研究センター	教授	若林良和
4	3号委員	南予水産研究センター	教授	高木基裕
5	3号委員	南予水産研究センター	准教授	竹ノ内徳人
6	3号委員	南予水産研究センター	准教授	後藤理恵
7	3号委員	南予水産研究センター	准教授	清水園子
8	4号委員	社会共創学部	教授	高橋学
9	4号委員	大学院理工学研究科	教授	小林真也
10	4号委員	大学院医学系研究科	教授	今村健志
11	4号委員	大学院農学研究科	教授	菅原卓也
12	4号委員	大学院農学研究科	教授	松枝直人
13	4号委員	先端研究・学術推進機構 (沿岸環境科学研究センター)	教授	森本昭彦
14	5号委員	社会連携支援部	部長	稲田洋一郎

(平成30年4月1日現在)

愛媛大学南予水産研究センター参与会要項（平成30年4月1日改訂）

（設置）

第1条 愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）に、センターの事業及び運営に関して助言等を得るため、愛媛大学南予水産研究センター参与会（以下「参与会」という。）を置く。

（組織）

第2条 参与会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 社会連携推進機構長
- (2) 大学院農学研究科長
- (3) 社会共創学部長
- (4) 南予水産研究センター顧問
- (5) 南予水産研究センター長及び副センター長
- (6) 南予水産研究センター運営委員会委員のうちから社会連携推進機構長が指名する者 若干人
- (7) 社会連携推進機構長が委嘱する学外有識者

2 前項第7号の委員の任期は、2年を超えない範囲で社会連携推進機構長が委嘱の都度定めるものとし、再任を妨げない。

（任務）

第3条 参与会は、センターの事業及び運営に関して、次の各号に掲げる事項を行う。

- (1) 地域行政、漁業協同組合等との連携及び地域社会のニーズの発掘についての支援
- (2) センターにおける研究、教育等への助言・支援
- (3) その他センターの事業及び運営に関する事項

（会議）

第4条 参与会に、座長を置き、社会連携推進機構長をもって充てる。

2 座長は、必要に応じて参与会を招集する。

3 座長に事故があるときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

4 座長は、議題に応じ、関係する本学の職員を参与会に出席させるものとする。

（事務）

第5条 参与会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

（雑則）

第6条 この要項に定めるもののほか、参与会の運営に関し必要な事項は、社会連携推進機構長が別に定める。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成26年1月27日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年10月29日から施行する。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

愛媛大学南予水産研究センター参与会委員名簿

	氏 名	所 属 ・ 職 名
愛 媛 大 学	仁 科 弘 重	社会連携推進機構長
	山 内 聡	大学院農学研究科長
	田 辺 信 介	南予水産研究センター顧問（沿岸環境科学研究センター長）
	武 岡 英 隆	南予水産研究センター長
	松 原 孝 博	南予水産研究センター副センター長
	若 林 良 和	南予水産研究センター運営委員会委員 教授
	高 木 基 裕	南予水産研究センター運営委員会委員 教授
	後 藤 理 恵	南予水産研究センター運営委員会委員 准教授
	清 水 園 子	南予水産研究センター運営委員会委員 准教授
	高 橋 学	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	小 林 真 也	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	今 村 健 志	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	菅 原 卓 也	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	松 枝 直 人	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	森 本 昭 彦	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	稲 田 洋一郎	南予水産研究センター運営委員会委員 部長
学 外 有 識 者	岡 原 文 彰	宇和島市長
	清 水 雅 文	愛南町長
	平 田 伸 治	愛媛県農林水産研究所水産研究センター長
	平 井 義 則	愛媛県漁業協同組合連合会 代表理事会長
	立 花 弘 樹	愛南漁業協同組合 代表理事組合長
	竹 田 英 則	久良漁業協同組合 代表理事組合長
	宮 下 一 郎	愛南町議会 議長
	宇 佐 和 人	愛南漁業協同組合 魚類養殖協議会長
	浅 野 豊	愛南漁業協同組合 真珠貝養殖協議会長
	濱 田 克 人	久良漁業協同組合 魚類養殖協議会長
	松 下 定 一	吉田町漁業協同組合 代表理事組合長
	平 井 義 則	宇和島漁業協同組合 代表理事組合長
松 本 嘉 晃	愛媛県認定漁業士協同組合 理事長	

（平成 30 年 11 月 30 日現在）

愛媛大学南予水産研究センター地域特別研究員要項（平成30年4月1日改訂）

（趣旨）

第1条 この要項は、愛媛大学南予水産研究センター規則第16条第2項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）に受け入れる地域特別研究員の取扱いに関し、必要な事項を定める。

（受入手続）

第2条 県・市町村の行政機関及び水産業を行っている機関（漁業協同組合等）（以下「派遣機関」という。）の長が地域特別研究員を派遣しようとするときは、センターが別に定める申込書に、派遣機関の長の推薦書及び本人の履歴書を添え、愛媛大学南予水産研究センター長（以下「センター長」という。）に申し込まなければならない。

（受入承認）

第3条 センター長は、愛媛大学南予水産研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、地域特別研究員の受入れを決定し、派遣機関の長へ通知するものとする。

（研究方法）

第4条 地域特別研究員は、センターの専任教員及び兼任教員の指導の下で、センターの研究活動に従事する。

2 地域特別研究員の研究場所は、センター長が確保するものとする。

（研究期間）

第5条 地域特別研究員の研究期間は、派遣機関との協議及び運営委員会の議に基づき、センター長が決定する。

（報酬等）

第6条 地域特別研究員に対する研究期間中の報酬その他人件費等は、本学からは支給しない。

2 地域特別研究員に対する調査研究等に係る経費（調査研究旅費を含む。）については、派遣機関との協議及び運営委員会の議に基づき、経費の額を決定する。

（研究料）

第7条 地域特別研究員に係る研究料は、徴収しない。

（研究証明書の交付）

第8条 地域特別研究員が、その研究事項について証明を願い出たときは、センター長は研究証明書を交付する。

（弁償等の義務）

第9条 地域特別研究員は、研究期間中において故意又は重大な過失によりセンターの設備、機械、器具等を亡失又は損傷したときは、速やかに復元し、又はその損傷を弁償しなければならない。

（遵守事項）

第10条 地域特別研究員は、この要項に定めるもののほか、センター長の指示に従わなければならない。

（雑則）

第11条 この要項に定めるもののほか、地域特別研究員に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室設置要項（平成30年4月1日制定）

（趣旨）

第1条 この要項は、愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）規則第17条第2項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室（以下「推進室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（業務）

第2条 推進室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地域からのセンターへの要請に関すること。
- (2) センターによる地域連携活動の企画、実施に関すること。
- (3) その他、センターの地域連携活動に関すること。

（組織）

第3条 推進室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 室員
 - ア センターの専任教員
 - イ 地域のステークホルダー 若干人

2 室長は、センター長が指名する専任教員をもって充てる。

3 第1項第2号イの室員は、センター長がその者の所属する機関等の長の同意を得て委嘱する。

（任期）

4 室長及び室員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、室長及び室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（業務）

第4条 室長は、推進室に関する業務を掌理する。

2 室員は、推進室の業務を処理する。

（雑則）

第5条 この要項に定めるもののほか、推進室に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

1 この要項は、平成30年4月1日から施行する。

2 愛媛大学南予水産研究センター地域連携・研究支援室設置要項（平成20年4月1日制定）は廃止する。

愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室室員名簿

氏 名		所 属 ・ 職 名
愛 媛 大 学	高 木 基 裕	南予水産研究センター 教授 (地域連携推進室長)
	松 原 孝 博	南予水産研究センター 教授
	若 林 良 和	南予水産研究センター 教授
	後 藤 理 恵	南予水産研究センター 准教授
	竹ノ内 徳 人	南予水産研究センター 准教授
	清 水 園 子	南予水産研究センター 准教授
学 外 有 識 者	岡 田 孝 洋	愛南漁業協同組合 販売促進部長
	中 川 宗 明	久良漁業協同組合 役員
	吉 田 遊	愛媛県立宇和島南中等教育学校 教諭
	喜多川 浩 史	愛媛県立宇和島水産高等学校 教諭
	永 井 伊 秀	愛媛県立南宇和高等学校 教頭
	守 口 庸 夫	愛南町商工観光課 課長補佐
	尾 川 勝 彦	愛南町水産課 水産振興係長

(平成 30 年度)

愛媛大学南予水産研究センター年報編集委員会

委員長	武岡 英隆	南予水産研究センター・センター長
副委員長	松原 孝博	南予水産研究センター・副センター長
	渡邊 弘昇	社会連携支援部社会連携課 TL

愛媛大学南予水産研究センター年報 第11号(2018年度版)

発行：2019年11月

発行者：愛媛大学南予水産研究センター 船越ステーション

〒798-4292 愛媛県南宇和郡愛南町船越1289-1

TEL 0895-82-1022 FAX 0895-82-1026

愛媛大学南予水産研究センター 西浦ステーション

〒798-4206 愛媛県南宇和郡愛南町内泊25

TEL 0895-73-7112 FAX 0895-73-7113

愛媛大学南予水産研究センター 松山ステーション(社会連携推進機構)

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3

TEL 089-927-8145 FAX 089-927-8820

URL <http://ccr.ehime-u.ac.jp/cnf/>

表紙写真 宇和海の養殖場(宇和島市)(撮影者:武岡英隆)